

議案第 23 号

「板橋区子ども読書活動推進計画 2025（原案）」について  
上記の議案を提出する。

令和 3 年 3 月 11 日

提出者 板橋区教育委員会教育長 中川 修一

「板橋区子ども読書活動推進計画 2025（原案）」について  
「板橋区子ども読書活動推進計画 2025（原案）」について審議する。

（提案理由）

素案に対する区民意見（パブリックコメント）を反映し、別紙のとおり計画原案を策定する。本計画は、「いたばし学び支援プラン」の下位計画として、令和 3 年度から令和 7 年度の 5 か年における、子どもの読書活動推進にむけた施策の方向性と取組みを計画化するものである。

板橋区子ども読書活動推進計画 2025（素案）に対する  
パブリックコメントの実施結果について

1. 募集期間：令和3年1月23日（土）～2月7日（日）＜16日間＞
2. 周知方法：①広報いたばし（令和3年1月23日号）  
②区ホームページ  
③区政資料室、区立図書館における閲覧
3. 件数：10件／3人（WEB提出3人）
4. 意見の概要と区の考え方

No.	項目	意見の概要	区の考え方（案）
1	図書の貸出に関する事	保護者が子ども（本人）の利用者カードで（代理）貸出できるのは小学生以下であるが、中学生以上も同様に適用してほしい。 中高生になると多忙で図書館に行く機会が増えるとは思えない。保護者に貸出の権限を与えることで家庭内での読書の機会は維持できると思う。	中学生以上は、代理による貸出はできませんが、WEB予約で取り寄せた本は、保護者の方でも受取り可能です。また、本の貸出サービスのほかにも、中高生の図書館利用が広がるよう、図書館内での学習スペースの提供や、中高生の居場所づくりとなるイベントや取組を進めていき魅力ある図書館運営を進めます。 ※取組事業 40・41
2 ①	ティーンズの居場所づくりに関する事	ティーンズ向けの新たな取組に期待している。ティーンズ専用の部屋があることは素晴らしい。できれば学習や読書の部屋とは別に、自由に友だちとおしゃべりができる、子どもたちの居場所ができればよいと思う。	新中央図書館2階のティーンズコーナー付近に「にぎやかテラス」という名称のテラスを設置します。コーナー内のティーンズ専用ルームでグループ利用による学習やサークル活動を楽しめるほか、テラスでは飲食と会話を楽しむ利用ができるようになります。
②	就学前児童への取組に関する事	アメリカに滞在していた経験から、日本であまり見ない取組として、「就学までに1,000冊の本を読もう」という目標があり、達成した子どもの写真を飾ったりしていた。ブックスタートと共にスタンプカードのようなものを渡すと親への動機づけになると思う。	区立図書館では、20冊記載できる手書き式の一般向け読書通帳、妊産婦向け読書通帳「おやこのどくしょきろく」、小学生向け読書通帳、中学生向け読書通帳を作成・配布しています。通帳満了した方に、各図書館の窓口で記念品を差し上げており、今後も読書通帳の使用普及に努めていきます。

③	本の紹介に関する こと	絵本から児童書にうつる段階で何を読めばいいのか情報を得るのに苦労している。小学校高学年は中学年のとき、中学年は低学年のとき、低学年は年長のときなど、その時にどんな本を読んでいたのか子どもたちにおすすめの本を紹介してもらい、あるいは貸出の多かった本を図書館で掲示するなどよいのではないかな。	※取組事業 10・15・62  区立図書館では、年齢や学年に応じたおすすめの本を紹介しています。また、図書館サポーターの派遣により、学校や乳幼児施設での読み聞かせや本の紹介、区立図書館での展示やランキング表の掲示等を実施しています。 ※取組事業 3・10・11・20・45
④	おはなし会の企画に関する こと	予算があればプロ（区内在住の芸人、俳優、落語家など）におはなし会などをやってもらおうと面白い。来館のきっかけになり、読み聞かせの参考にもなると思う。	区立図書館では、乳幼児から大人まで、あらゆる世代を対象とした館内イベントを実施しています。区内の著名な作家から芸術分野で活躍しているプロの方に講座や公演などをお願いしています。 ※取組事業 3・8・16・17・28・29・43・63
⑤	館内の雰囲気づくりに関する こと	子どもの本があるコーナーでは、読み聞かせなど多少声を出してもOKという雰囲気を作ってほしい。大人と共有スペースのことが多く、規模によっては中々難しいとは思いますが、楽しく寛いだ雰囲気づくりが来館を促し、ひいては読書習慣につながると思う。	新中央図書館の1階は、児童エリアとボローニャ絵本館を併設したフロアで、賑わいのある空間として、親子での読み聞かせや友だちとの会話が楽しめるようになります。また、区立図書館では、来館者に楽しんでもらえる様々なイベントを実施しています。 ※取組事業 3・8・16・17・28・29・43・63
3 ①	不読率の悪化に関する こと	令和2年は特別な年であったが、結果として5年間で改善されていない。その理由を分析し、問題解決手段として、特にどの企画が有望と考えているのか知りたい。	東京都の計画が示した不読率減少割合を基準に、区でも計画策定時の不読率から3割減少させる目標値にした結果、達成に至りませんでした。不読率の減少には、大人が率先して読書環境を整備することに効果が見込めます。特に、朝読書の時間の確保や学校図書館の積極的活用を学校に協力を求めています。

			<p>また、読書通帳の活用が定着するよう、学校との連携を引き続き行いながら、表彰制度を積極的にPRし、子どもたちの本を読む意欲やモチベーションを高める取組を進めていきます。</p> <p>※取組事業 15・21・22・26・32・33・35・36・60・62</p>
②	計画の目標に関すること	<p>最終的なゴールは、読書のすばらしさを子どもたちに伝えることだと思うが、どうなったときにそれが達成したと考えるのか。不読率の目標を超えることが一つの目安だと思うが、それ以外に評価方法はあるのか。</p>	<p>学校や家庭だけではなく、身近にいる多くの大人が子どもたちに積極的に関わり、読書の機会を作ることが重要だと考えます。数値的な評価から、読書を推進する取組の実施状況や、実施したことで得られた結果や効果を評価・検証していきます。</p> <p>※取組事業 3・7・16・21・22・26・28・32・33・36・62</p>
③	読書の効果と計画の方向性に関すること	<p>本を読むことのすばらしさは、将来、子どもたちが生きていくために必要な力がつくことだと考える。ただし、そこには大きく二つの正反対のよさがあり、一つは情操教育による心の豊かさを育む教育、もう一つは国語の力などの学力の向上であると考えます。この二つはどちらも大切で、どちらも読書によって大きく伸びるものだが、その方向性は大きく違う。企画ごとにその方向性を明確にしたほうがよい結果につながるのではないかと。</p>	<p>計画策定の検討委員会において、「乳幼児期のできるだけ早い段階からの読み聞かせが重要である」ことを重点に考えたこと、国の「発達段階に応じた取組が読書習慣を形成する」こと、東京都の「成長段階に応じた取組」としての具体的事業が示されていることをベースにした構成としています。なお、今回いただいたご意見と同様の考え方も本文（1P）で示しています。</p>
④	計画の取組に関すること	<p>継続する取組が多く一つひとつよい企画で続けてほしいと思うが、不読率がよくなっていない。継続する企画も更にプラスαがあるとよいと思う。</p> <p>例えば、絵本づくりはよい企画で子どもも喜びそうだが、もっと喜ばせるために、作った絵本を図書館に置いて、一定期間貸出できるようにすると、他</p>	<p>素案の段階で提示していなかった新規取組事業を原案で提示します。素案に示した取組事業を含めて、全ての個別事業について、5か年における年次計画や事業目的を追記し、更に計画を具体化しました。今回いただきました参考事例については、今後事業を実施する際の参考とさ</p>

	<p>の本も借りて本好きになるかもしれない。</p> <p>絵本のテーマを板橋区に限定して、商店街を取材しお店ごとに絵本を作れば地域の活性化になるかもしれない。その本を商店街に置いたり、学校や図書館を巡回するなど、地域を巻き込んだ大きな企画を区のイベントとして期待したい。商店街ごとの読書スタンプラリーなども楽しそうである。</p> <p>区内の私立小・中・高校に働きかけ、読書することが入試の役に立つイベントがあると喜ばれるのではないかと。英検や漢検に代わる読検を企画し、入試で加点されるなどがあると、受験で忙しくて本を読む時間が無いという子どもの不読率を下げるかもしれない。私立公立の垣根なく区が取組があると面白いと思う。学力向上はこだわってもよいポイントだと思う。</p>	<p>させていただきます。</p> <p>※新規事業 12 事業</p> <p>1・14・15・40・41・53・54・55</p>
--	---	--

#### 5. 素案（パブリックコメント）からの主な変更点

No.	ページ	変更内容
1	2～3	(1) 総括の内容を修正
2	4～13	(2) 読書についてのアンケート集計結果を追記
3	15～16	(4) 「取組事業一覧」から「取組事業に対する評価」に内容を修正
4	20	1 計画の目標の内容を修正
5	20～21	2 基本方針の内容を修正
6	24	5 重点施策の内容を修正
7	25	6 進行管理を追記
8	29～51	新規事業を追記。既取組事業欄に目的と年次計画を追記

※全体的な文言整理を行った。

#### 6. 今後のスケジュール(予定)

3月27日           パブリックコメントの公表  
4月15・16日   文教児童委員会への報告  
5月               計画策定

担当 教育委員会事務局中央図書館事業サービス係

TEL 6 2 8 1 - 0 2 9 1

# 板橋区子ども読書活動推進計画 2025

( 原 案 )

板橋区教育委員会



## はじめに

---

令和3年3月28日、板橋区立中央図書館が平和公園内にリニューアル・オープンしました。特色は何といても、いたばしボローニャ絵本館を併設している1階のフロアです。乳幼児、児童生徒から大人まで、そして親子連れ、家族連れのみなさまにも大いに楽しみ、学んでいただけるしつらえを工夫しております。ぜひ一度ご来館いただきたいと思います。

さて、「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、読書活動の意義について、「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と記しています。また文化審議会の報告によれば「読書活動は、国語力を形成している『考える力』、『感じる力』、『想像する力』、『表す力』、のいずれにもかかわり、これらの力を育てる中核となるものである」とあります。これは現在、板橋区ですべての子どもたちに身に付けさせたい力である「読み解く力」の育成とも深いつながりをもっています。しかし、「学校読書調査」によれば、小学校から高等学校までの児童生徒の9割前後が「本を読むことは大切である」と認識しているにもかかわらず、5月の1か月間に1冊も本を読まなかった児童生徒の割合が、学年が進むにつれて高くなっています。

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。中でも、ゲームやインターネットの普及でいつでも、どこでも簡単に欲しい情報を手に入れやすくなっています。このように情報化が進み利便性が良くなる半面、ゲームやインターネットに費やす時間が増え、読書活動などに親しむ時間が減るなど、子どもの発達に及ぼす影響が心配されています。

### 【子どもを読書の世界に誘う3つの役割】

（家庭の役割）子どもにとっての「本との出会い」は家庭から始まります。乳幼児は家庭での絵本などを読み聞かせてもらうことで、愛情を感じながら本の楽しさに出会い、本との距離を縮めます。ぜひ、家庭において、子どもと一緒に本を読んだり、図書館等に出かけ読み聞かせなどに積極的に参加したりしていただくことを願います。

（学校の役割）学校は、読書への興味を起こさせ、本の世界への道案内をする上で、とても大きな役割を担っています。学校図書館機能の充実を図り、子どもたちの心安らぐ居場所としての環境づくりに努めていただくことを願います。

（図書館の役割）図書館は自由に読みたい本を選び、調べ学習に必要な資料が備わっている子どもたちの読書活動を推進するための重要な場所として、魅力ある図書を置くことはもちろん、読書活動に関する情報を発信し、定期的に読み聞かせやお話し会など積極的に読書活動に関する啓発や事業を進めて参ります。

結びに、本計画作成にご協力いただいたみなさまに心から御礼申し上げます。

令和3年 月

板橋区教育委員会  
教育長 中川 修一



## 目 次

### はじめに

### 第1章 計画策定の意義

1 計画策定の背景	1
2 第二期計画の評価	2
(1) 総括	2
(2) 読書についてのアンケート集計結果（抜粋）	4
(3) 重点事業の実施状況	14
(4) 取組事業に対する評価（57事業）	15
(5) 成果指標	17
3 国の動向	18
4 東京都の動向	19

### 第2章 基本方針

1 計画の目標	20
2 基本方針	20
(1) 子どもの読書のための環境の整備・充実	20
(2) 子どもの年齢・発達の段階に応じた取組	21
(3) 家庭・地域・学校との協力、連携による取組	21
3 計画の期間	22
4 計画の位置付け	23
5 重点施策	24
6 進行管理	25

### 第3章 具体的な取組

板橋区子ども読書活動推進計画アクションプラン	26
1 子どもの年齢・発達の段階に応じた取組	28
(1) 乳幼児を対象とした取組	29
(2) 小学生を対象とした取組	32
(3) 中学生を対象とした取組	37
(4) 中高生（ティーンズ）世代を対象とした取組	41
(5) 特別な支援を必要とする子どもたちへの取組	43
2 家庭・地域・学校との協力、連携による取組	45

### 第4章 参考資料

第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会設置要領	49
第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会委員名簿	51
第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会検討経過	53
子どもの読書活動の推進に関する法律	54

## 第1章 計画策定の意義

### 1 計画策定の背景

国では、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月12日法律第154号）に基づき、概ね5年にわたる子どもの読書活動の推進に関する基本方針と具体的方策を示した第四次計画を平成30年4月に策定しています。

基本理念には、読書活動は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることに鑑み、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」とあります。

国や東京都の計画策定を踏まえて、板橋区では5か年にわたる計画として、第1期計画（平成23年度～平成27年度）及び第2期計画（平成28年度～令和2年度）を策定してきました。

令和2年度には、第2期計画期間の最終年度を迎えるため、第3期計画（令和3年度～令和7年度）を策定する検討委員会を設置し、引き続き5か年計画を策定しました。

今回策定した計画の考え方は、国の第四次計画の方針及び新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の指針に基づいています。また、学習指導要領総則には、「何が起こるか分からない時代で生きるために必要とされる資質能力育成」のための中核能力として、①言語能力、②情報活用能力、③問題発見・解決能力が挙げられています。この三つの能力の基盤になるのは①の言語能力といわれています。基盤となる言語能力を育む一つの効果として、読書を勧め、読書の習慣を形成していくことが重要といわれています。

本計画では乳幼児期からの「読み聞かせ」の機会を充実していくことをはじめ、「学校図書館の積極的な活用」や「学校図書館と区立図書館との連携を強化する」ことを中心に取り組んでいきます。

なお、読書を推進するにあたっては、学力向上や資質能力の育成に大きく貢献することをはじめとして、絵本や物語に出てくる主人公の気持ちを疑似的に体験することや、自分の生活では中々得られない経験を本から学ぶことで、本を読むことの「楽しさ」や本の「魅力」を、より多くの子どもたちに伝えられるよう、成長時期にあわせた取組を展開していきます。

## 2 第2期計画の評価

### (1) 総括

第2期計画は、2つの重点事業（14ページ参照）及び具体的な57の取組事業（新規15、拡充14、継続28）で構成しました。具体的な57の取組事業は、家庭・地域・学校・図書館における取組が、学力の向上・読書率の向上・図書館利用率の向上に資するように、就学前から中学生までを対象にしています。

中央図書館では毎年、所管課から計画事業の実施報告を受けて事業全体の進行管理を行ってきました。そしてこの5か年（平成28年度～令和2年度）、取組事業は概ね順調に実施（15・16ページ参照）されてきました。一部遅延となった、「1（8）児童コーナー（室）の利用時間拡大」も、令和3年3月に新中央図書館が移転オープンし、児童コーナーは20時まで利用時間を拡大します。また、地域図書館の児童コーナー（室）の利用時間も同様に拡大します。

さて、第2期の計画では、平成28年度に実施する調査時から、令和2年度には不読率（1か月に1冊も本を読まなかった率）を3割減とする不読率の減少を目標（18ページ参照）に掲げて、毎年、小学校6校全学年、中学校2年生を対象に、読書の傾向について調査してきました。

小学校では、平成28年度に6.5%の不読率を令和2年度に4.6%まで減少する目標値とし、中学校では、平成28年度に10.5%の不読率を令和2年度に7.4%まで減少する目標値として読書の傾向を見てきた調査の集計結果（抜粋）は、4ページから13ページにあるとおりです。

小学校は令和2年度に10.1%と3.6ポイント上昇し、目標は達成しませんでした。「本を読まなかった理由」で一番多いのは、「読みたい本がなかったから」の28.3%で、次いで、「読書が好きではないから」の24.4%でした。「読みたい本がない」と回答する背景には、読みたい本を自分で探せないこと、何を読んでよいかわからないこと、今までに読んだ本以外に本の世界や魅力を知らないこと、自分の年齢や興味を持って読める本を誰に聞いたらよいかかわからないことなどが推察されます。また、今回の調査で対象外としていた「漫画本、雑誌、新聞、教科書・参考書・辞典」を読んでいるとの回答もありました。その他、「忙しかったから」、「遊んでいたから」の回答がそれぞれ約13%あり、本を読まなかった理由には複数の要因があると思われます。

令和2年度の調査では、電子書籍の本も読んだ本に含まれていますが、電子書籍には漫画本や雑誌が多く、書籍のジャンルも限られているのが現状です。今後はGIGAスクール構想によるICTの積極的な活用が進みます。学習利用だけではない活用方法や電子書籍の活用を想定した読書のあり方を検討していく必要があります。インターネット閲覧や検索機能を生かした本の情報提供など、場所や時間を限定しないサービスを検討します。また、活字の多い読書を嫌厭しがちな子どもには、芸術性や物語性

の高い絵本や学習漫画を積極的に紹介し、本を見る、本を読むことに興味を持たせるきっかけを取組の一つの手法としていきます。本から得られる楽しみや喜びを実感してもらえよう、様々な切り口から本の紹介を行い、引き続き不読率の減少に努めます。

中学生の調査では、令和元年度に7.3%と不読率が減少しましたが、最終年度の令和2年度には12.2%と4.8ポイント上昇となりました。「本を読まなかった理由」で一番多かったのは、「読みたい本がなかったから」の61.4%で、次いで、「本を読むことに興味がない」の59.8%でした。「読みたい本がない」と回答する背景には、小学生と同様、読みたい本を自分で探せないこと、何を読んでよいのかわからないことが主な要因と思われます。幼少期からの読書が身に付いていないために、物語の世界や作品の魅力を知らないこと、本を読むより楽しいと思えるゲームや動画に時間を費やしていることなどが推察されます。また、中学生は部活動や学習塾に多くの時間を割いていることもあり、本を読むことに興味がない実際の理由には、本の好き嫌いよりも他のやりたいことに興味が強いこと、「本を読む時間がない」の回答からも、時間的制約によるやりたいことの優先順位が低調になることが推察されます。小学生と同様に複数の要因はありますが、中学生の読書時間が少しでも増えるよう、「ブックトーク」や「ビブリオバトル」などの体験型イベントを中心とした本の紹介を行い、本を読む楽しさが伝わる取組により不読率の減少に努めます。

なお、児童館、保育園、幼稚園に通う保護者に調査した「読書についてのアンケート」で、家に子ども向けの本や絵本が何冊あるかの問いに、「10冊以上」82.5%、「5冊～10冊未満」9.4%、「1冊～5冊」4.4%の回答があり、全体の96.3%は家に子ども向けの本や絵本があることがわかりました。「無回答」3.7%と「ない」0%の回答からも、本のない家庭はないと思われ、家庭における幼少期からの読書活動は、どの家庭においても行われている結果となりました。本計画でも引き続き、「親子による読み聞かせ」を中心とした家庭読書の定着と、毎月23日を「家庭読書（うちどく）の日」と定めて推奨していることへのPRを更に強化していきます。

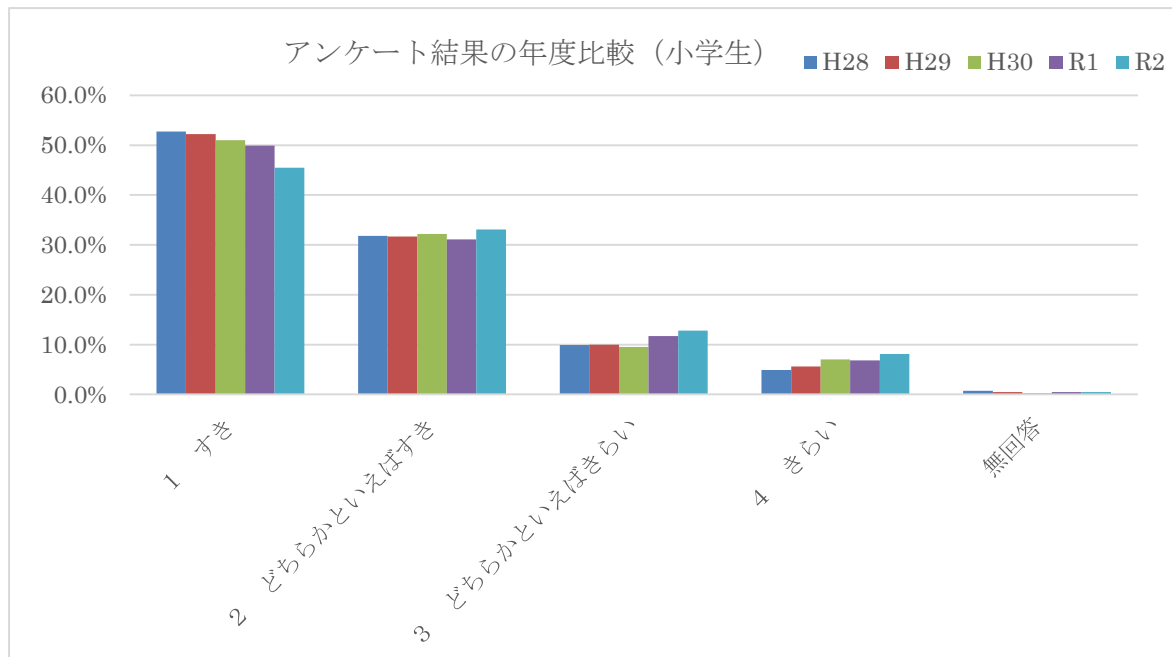
## (2) 読書についてのアンケート集計結果（抜粋）

小学生：本を読むことの好き嫌い

平成 28 年度～令和 2 年度

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
1 すき	R2	60.9%	48.4%	45.1%	42.6%	39.4%	35.2%	45.5%
	R1	67.0%	54.3%	48.4%	46.3%	41.7%	41.6%	49.9%
	H30	68.2%	57.5%	49.0%	44.2%	42.0%	44.8%	51.0%
	H29	65.3%	57.7%	50.5%	46.8%	50.6%	41.1%	52.2%
	H28	62.4%	58.9%	54.5%	54.3%	45.5%	40.7%	52.7%
2 どちらか といえば すき	R2	23.2%	31.7%	38.1%	37.9%	32.8%	36.3%	33.1%
	R1	18.3%	31.4%	37.9%	33.3%	34.4%	31.8%	31.1%
	H30	20.8%	29.3%	37.2%	35.9%	34.6%	36.1%	32.2%
	H29	24.3%	32.1%	33.6%	35.0%	32.1%	33.6%	31.7%
	H28	25.7%	30.1%	31.9%	33.9%	34.0%	35.2%	31.8%
3 どちらか といえば きらい	R2	8.1%	10.1%	10.2%	11.2%	19.0%	18.6%	12.8%
	R1	5.6%	8.2%	7.9%	13.7%	15.9%	18.9%	11.7%
	H30	5.1%	7.6%	8.3%	10.9%	13.5%	11.7%	9.5%
	H29	4.2%	5.9%	9.5%	11.3%	12.4%	16.8%	10.0%
	H28	6.1%	5.2%	9.0%	9.2%	14.9%	15.1%	9.9%
4 きらい	R2	7.2%	9.2%	5.9%	7.9%	8.8%	9.7%	8.1%
	R1	8.7%	4.9%	5.8%	6.1%	7.6%	7.6%	6.8%
	H30	5.2%	5.0%	5.5%	9.0%	9.4%	7.4%	7.0%
	H29	5.1%	4.1%	6.2%	6.3%	4.3%	8.3%	5.6%
	H28	4.8%	4.9%	3.7%	2.0%	5.6%	8.4%	4.9%

※無回答及び特別支援の集計は、記載を省略した。



（小学生：集計結果）

5か年の推移に大きな変動はないものの、「すき」の割合は、平成28年度の52.7%から令和2年度の45.5%と7.2ポイント減少し、「どちらかといえばすき」の割合は、平成28年度の31.8%から令和2年度の33.1%と1.3ポイント増加している。

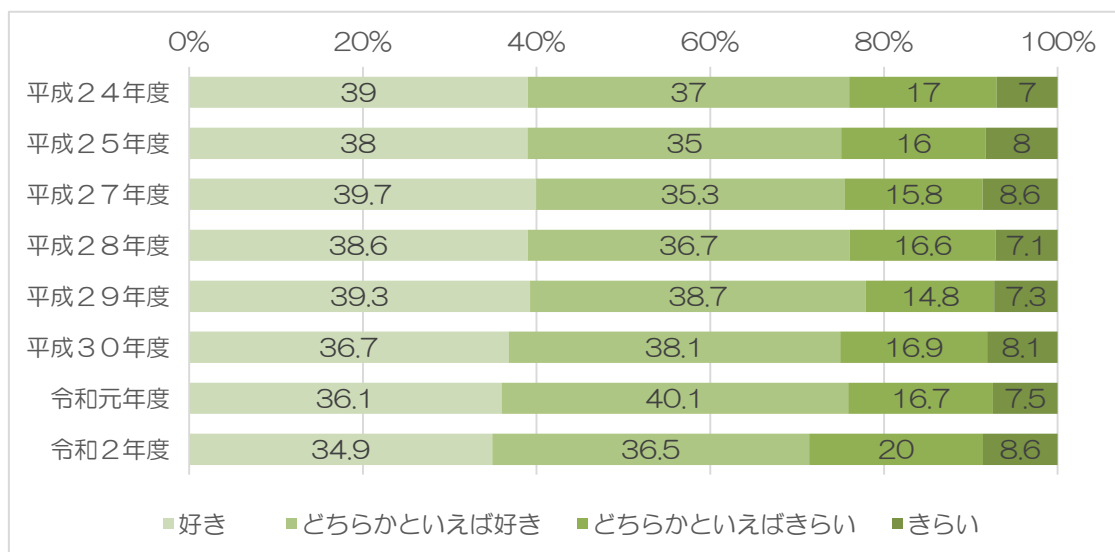
また、「どちらかといえばきらい」の割合は、平成28年度の9.9%から令和2年度の12.8%と2.9ポイント増加し、「きらい」の割合は、平成28年度の4.9%から令和2年度の8.1%と3.2ポイント増加している。

「すき」と「どちらかといえばすき」の合計は、平成28年度の84.5%から令和2年度の78.6%と5.9ポイント減少し、「きらい」と「どちらかといえばきらい」の合計は、平成28年度の14.8%から令和2年度の20.9%と6.1ポイント増加している。

全体的に読書を好まない傾向が年々増加傾向にあり、特に、学年が上がるにつれて「きらい」の割合が高くなる傾向となっている。

中学生：本を読むことの好き嫌い

平成24年度～令和2年度



(中学生：集計結果)

5か年の推移に大きな変動はないものの、「好き」の割合は、平成28年度の38.6%から令和2年度の34.9%と3.7ポイント減少し、「どちらかといえば好き」の割合は、平成28年度の36.7%から令和2年度の36.5%と0.2ポイント減少している。

また、「どちらかといえば嫌い」の割合は、平成28年度の16.6%から令和2年度の20.0%と3.4ポイント増加し、「嫌い」の割合は、平成28年度の7.1%から令和2年度の8.6%と1.5ポイント増加している。

「好き」と「どちらかといえば好き」の合計は、平成28年度の75.3%から令和2年度の71.4%と3.9ポイント減少し、「嫌い」と「どちらかといえば嫌い」の合計は、平成28年度の23.7%から令和2年度の28.6%と4.9ポイント増加している。

全体的に読書を好まない傾向が年々増加傾向にある。

小学生：1か月に何冊本を読むか（不読率）

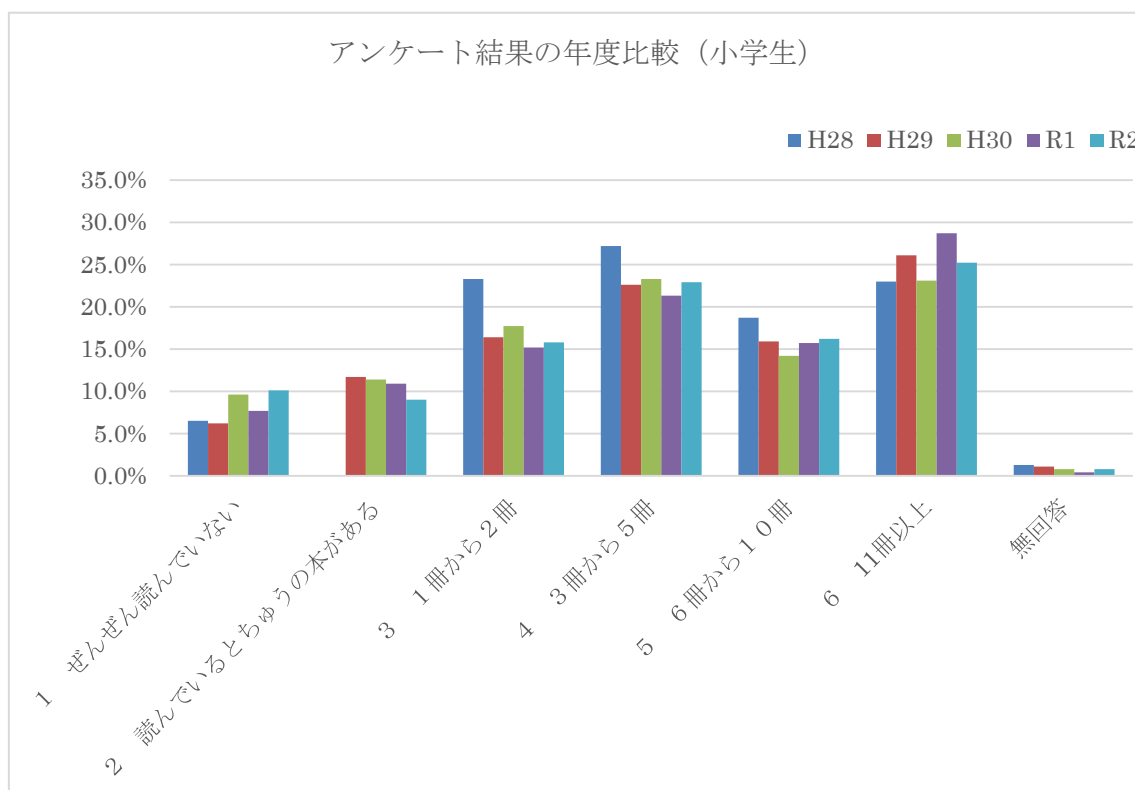
平成28年度～令和2年度

	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
1 ぜんぜん読 んでいない	R2	5.3%	5.8%	8.6%	10.8%	14.8%	15.7%	10.1%
	R1	4.3%	4.2%	7.9%	10.0%	9.4%	10.9%	7.7%
	H30	2.7%	3.5%	10.2%	13.2%	15.6%	12.1%	9.6%
	H29	1.9%	2.9%	5.2%	6.3%	8.3%	13.0%	6.2%
	H28	2.1%	3.7%	7.0%	2.7%	10.2%	12.8%	6.5%
2 読んでいる とちゅうの 本がある	R2	8.8%	8.1%	8.2%	7.4%	10.9%	10.8%	9.0%
	R1	12.2%	5.8%	10.6%	11.1%	12.5%	13.5%	10.9%
	H30	7.4%	9.7%	8.1%	12.7%	14.6%	15.6%	11.4%
	H29	11.2%	7.9%	9.8%	10.4%	13.5%	18.4%	11.7%
3 1冊から 2冊	R2	13.6%	15.2%	11.4%	16.1%	16.1%	22.4%	15.8%
	R1	10.4%	10.2%	10.1%	16.5%	22.1%	20.7%	15.2%
	H30	14.6%	16.7%	13.9%	16.2%	21.1%	23.6%	17.7%
	H29	12.0%	13.0%	13.6%	16.5%	20.8%	23.1%	16.4%
	H28	20.1%	15.1%	20.3%	20.3%	29.2%	34.9%	23.3%
4 3冊から 5冊	R2	14.1%	23.5%	25.0%	24.0%	26.6%	24.9%	22.9%
	R1	13.9%	17.2%	20.7%	21.3%	26.1%	28.8%	21.3%
	H30	20.6%	19.6%	21.6%	26.8%	22.2%	28.1%	23.3%
	H29	13.1%	18.2%	24.0%	26.0%	29.5%	24.7%	22.6%
	H28	15.7%	25.8%	27.2%	31.7%	31.2%	31.9%	27.2%
5 6冊から 10冊	R2	16.5%	17.1%	18.0%	15.7%	16.4%	13.2%	16.2%
	R1	13.0%	17.4%	17.0%	20.9%	14.1%	12.0%	15.7%
	H30	15.7%	15.7%	19.2%	14.3%	11.1%	9.3%	14.2%
	H29	13.0%	19.3%	21.2%	16.4%	14.5%	9.5%	15.9%
	H28	21.6%	20.3%	19.7%	26.0%	15.3%	10.1%	18.7%
6 11冊以上	R2	39.8%	29.3%	28.2%	25.7%	15.0%	12.8%	25.2%
	R1	45.2%	43.9%	33.5%	20.0%	15.8%	14.0%	28.7%
	H30	37.6%	32.8%	26.6%	16.4%	15.0%	11.3%	23.1%
	H29	44.2%	38.4%	25.9%	23.6%	12.8%	11.1%	26.1%
	H28	37.8%	32.5%	24.5%	18.7%	14.1%	10.1%	23.0%

※2の回答は、平成29年度から新たに追加した。

※無回答及び特別支援の集計は、記載を省略した。





#### （小学生：集計結果）

「ぜんぜん読んでいない」の割合は、平成28年度の6.5%から令和2年度の10.1%と3.6ポイント増加し、その結果、目標値の4.6%に対して5.5ポイント増加となり、目標を達成する結果は得られなかった。

学年別で見ると、平成28年度の調査時は、1年2.1%、2年3.7%、3年7.0%、4年2.7%、5年10.2%、6年12.8%で令和2年度には、1年5.3%、2年5.8%、3年8.6%、4年10.8%、5年14.8%、6年15.7%と全ての学年で不読率が悪化している。学年が上がるにつれて不読率は大きくなり、特に、4年での不読率が8.1ポイント増加と悪化している。

一方で、読んだ本の冊数が「11冊以上」と回答した割合は、1年37.8%から39.8%、2年32.5%から29.3%、3年24.5%から28.2%、4年18.7%から25.7%、5年14.1%から15.0%、6年10.1%から12.8%と、2年を除いては本を多く読む割合が増加している。不読率を引き上げている4年で特に本を多く読む割合が伸びており7.0ポイント増加している。不読率の割合が高くなる一方で、本を多く読む割合も高いのが4年の特徴となっており、二分化の傾向が目立つ結果となった。

小学生：本を読まない理由

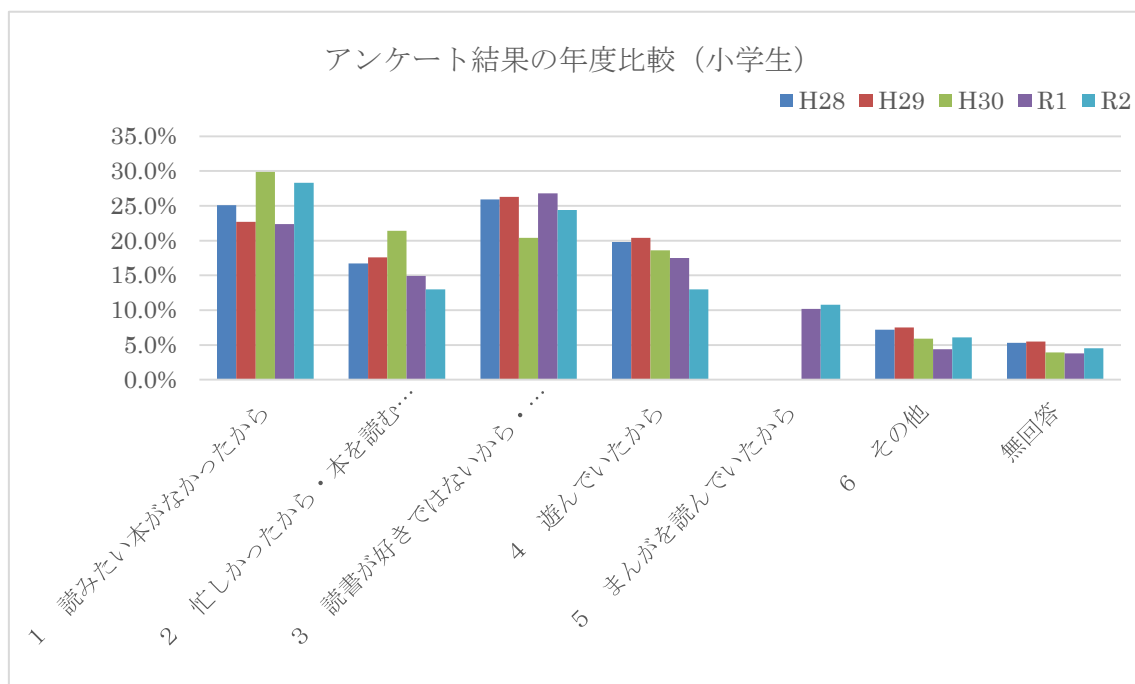
平成28年度～令和2年度

	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
1 読みたい本がなかったから	R2	31.4%	23.2%	26.2%	28.6%	31.8%	26.4%	28.3%
	R1	16.7%	18.8%	14.9%	16.0%	29.2%	28.9%	22.4%
	H30	28.6%	10.5%	34.9%	25.6%	28.9%	35.6%	29.9%
	H29	10.0%	23.5%	19.5%	26.3%	30.3%	19.8%	22.7%
	H28	33.3%	35.0%	17.0%	26.3%	28.6%	23.2%	25.1%
2 忙しかったから・ 本を読む時間がなかったから	R2	13.7%	17.9%	14.8%	12.9%	12.4%	10.7%	13.0%
	R1	16.7%	6.3%	25.5%	16.0%	13.5%	11.8%	14.9%
	H30	7.1%	5.3%	30.2%	15.6%	19.3%	29.9%	21.4%
	H29	20.0%	5.9%	19.5%	21.1%	21.4%	15.4%	17.6%
	H28	33.3%	10.0%	27.6%	15.8%	9.5%	15.2%	16.7%
3 読書が好きではないから・ 本を読みたくなから・つまらない	R2	9.8%	23.2%	26.2%	25.7%	22.5%	30.0%	24.4%
	R1	25.0%	25.0%	29.8%	32.0%	19.1%	30.3%	26.8%
	H30	0.0%	15.8%	15.9%	31.1%	21.9%	14.9%	20.4%
	H29	0.0%	23.5%	24.4%	21.0%	25.0%	33.0%	26.3%
	H28	6.7%	20.0%	23.4%	31.6%	20.6%	33.3%	25.9%
4 遊んでいたから	R2	5.9%	14.3%	13.1%	17.1%	12.4%	13.6%	13.0%
	R1	4.2%	25.0%	10.6%	25.3%	20.2%	11.8%	17.5%
	H30	14.3%	47.4%	7.9%	23.3%	21.1%	12.6%	18.6%
	H29	10.0%	23.5%	19.5%	21.0%	16.1%	23.1%	20.4%
	H28	0.0%	10.0%	23.4%	15.8%	20.6%	23.2%	19.8%
5 まんがを読んでいたから ※2	R2	2.0%	12.5%	14.8%	8.6%	11.6%	12.1%	10.8%
	R1	4.2%	9.4%	8.5%	6.7%	15.7%	10.5%	10.2%
6 その他	R2	0.0%	5.4%	4.9%	7.1%	8.5%	6.4%	6.1%
	R1	8.3%	6.3%	4.3%	4.0%	2.2%	5.3%	4.4%
	H30	0.0%	5.3%	6.3%	3.3%	7.9%	6.9%	5.9%
	H29	0.0%	5.9%	12.2%	5.3%	5.4%	8.8%	7.5%
	H28	6.7%	0.0%	4.3%	10.5%	15.9%	4.1%	7.2%

※令和元年度から5の回答を追加した。

※無回答及び特別支援の集計は、記載を省略した。

※網掛けは、各学年、各年度の上位回答。



（小学生：集計結果）

本を読まない理由で最も多かったのは、「読みたい本がなかったから」と「読書が好きではないから・本を読みたくないから・つまらない」の回答でした。

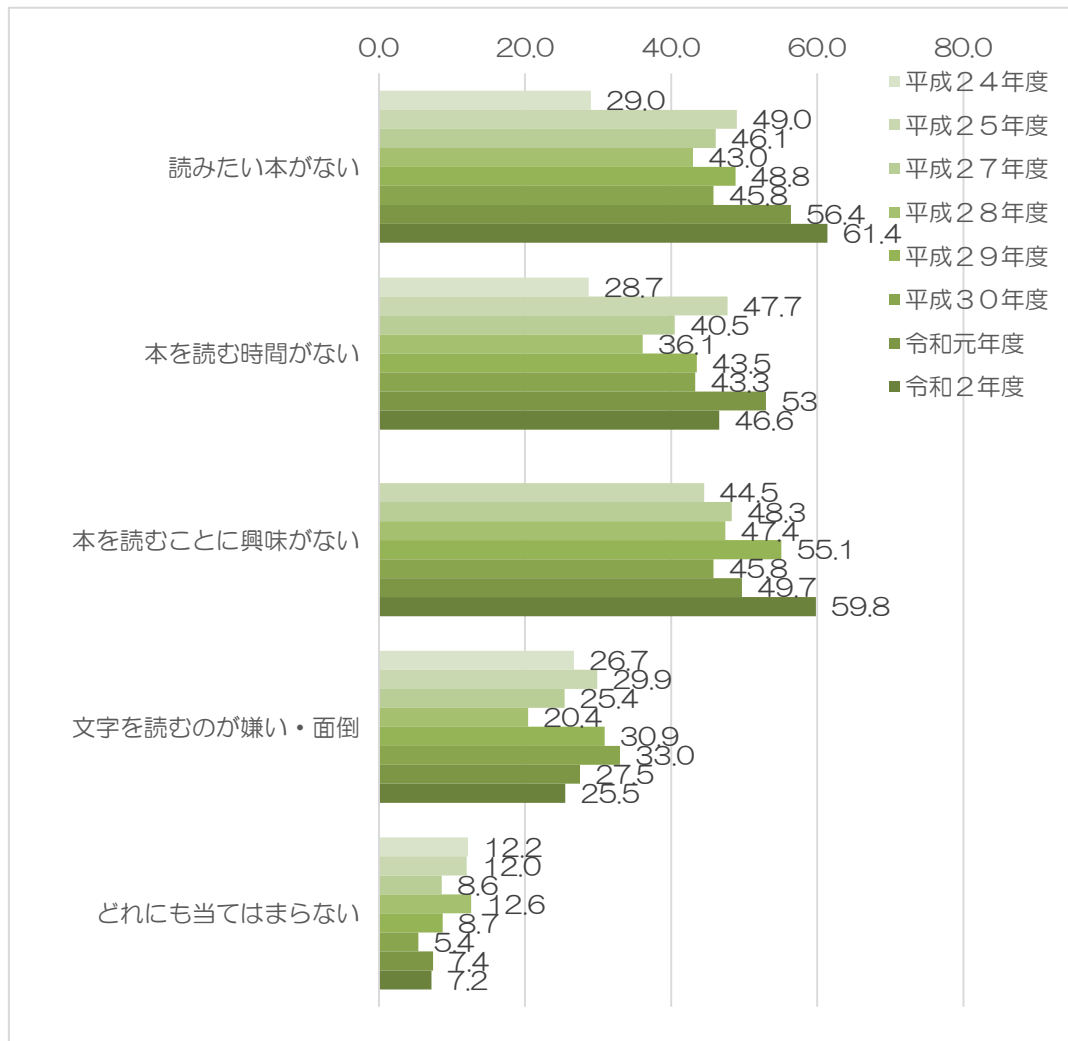
各年度の学年別の上位回答は、次の表のとおりです。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1 年	読みたい本がない 忙しい	忙しい	読みたい本がない	読書が好きでない	読みたい本がない
2 年	読みたい本がない	読みたい本がない 読書が好きでない 遊んでいた	遊んでいた	読書が好きでない 遊んでいた	読書が好きでない
3 年	忙しい	読書が好きでない	読書が好きでない	読書が好きでない	読みたい本がない 読書が好きでない
4 年	読書が好きでない	読みたい本がない	読書が好きでない	読書が好きでない	読みたい本がない
5 年	読みたい本がない	読みたい本がない	読みたい本がない	読みたい本がない	読みたい本がない
6 年	読書が好きでない	読書が好きでない	読みたい本がない	読書が好きでない	読書が好きでない

どの学年においても「読みたい本がない」と「読書が好きでない」の回答が上位を占める結果となり、本を読まない大きな要因となることがわかりました。

中学生：本を読まない理由

平成24年度～令和2年度



(中学生：集計結果)

本を読まない理由で最も多かったのは、「読みたい本がない」と「本を読むことに興味がない」の回答でした。各年度の上位回答は、次の表のとおりです。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
読むことに興味がない	読むことに興味がない	読みたい本がない 読むことに興味がない	読みたい本がない	読むことに興味がない

この調査は、主に中学2年を対象に、中学校が独自に調査・集計しているもので、小学校と設問や回答が異なりますが、「読みたい本がない」、「読むことに興味がない」が本を読まない理由の上位を占めています。また、中学生は部活動や塾など、授業終了後の様々な活動に時間を費やすことが多いことから、「本を読む時間がない」理由も多くの回答があり、本を読まない大きな要因となることがわかりました。

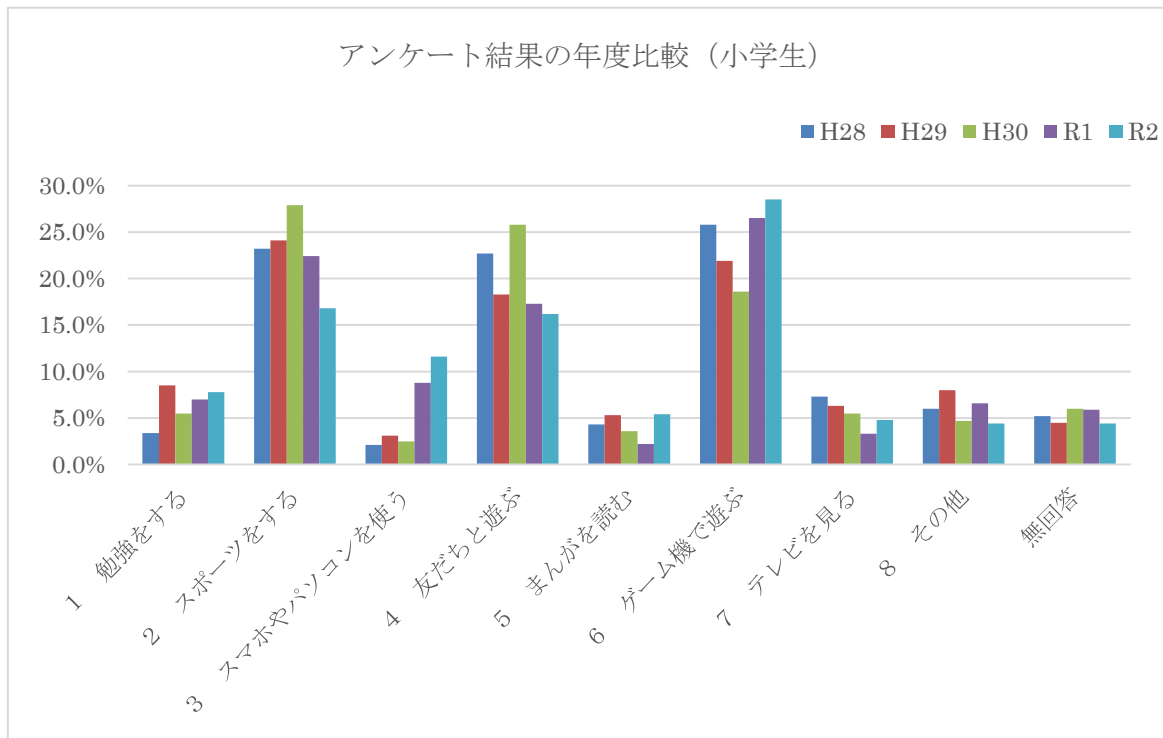
小学生：本を読むより、やりたいこと

平成 28 年度～令和 2 年度

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
1 勉強をする	R2	8.9%	9.2%	9.6%	8.9%	9.5%	3.4%	7.8%
	R1	6.3%	4.2%	2.4%	7.4%	5.1%	12.9%	7.0%
	H30	0.0%	0.0%	8.5%	2.3%	3.9%	11.0%	5.5%
	H29	10.0%	13.3%	8.8%	2.6%	9.1%	10.0%	8.5%
	H28	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	2.7%	3.4%
2 スポーツを する	R2	16.5%	15.4%	5.8%	23.2%	18.3%	18.5%	16.8%
	R1	9.4%	8.3%	19.5%	31.5%	25.4%	25.8%	22.4%
	H30	7.1%	20.0%	28.8%	27.9%	33.0%	26.8%	27.9%
	H29	20.0%	20.0%	23.5%	18.4%	30.9%	22.8%	24.1%
	H28	16.7%	17.4%	25.0%	33.3%	23.4%	22.7%	23.2%
3 スマホやパソ コンを使う	R2	8.9%	12.3%	15.4%	12.5%	10.3%	12.6%	11.6%
	R1	0.0%	12.5%	7.3%	9.3%	10.2%	11.3%	8.8%
	H30	7.1%	0.0%	1.7%	4.7%	1.0%	2.4%	2.5%
	H29	0.0%	0.0%	2.9%	7.9%	0.0%	2.9%	3.1%
	H28	8.3%	0.0%	4.5%	0.0%	1.6%	1.3%	2.1%
4 友だちと遊ぶ	R2	12.7%	18.5%	15.4%	8.9%	17.5%	20.2%	16.2%
	R1	6.3%	20.8%	12.2%	16.7%	20.3%	22.6%	17.3%
	H30	14.3%	20.0%	23.7%	24.4%	29.1%	28.0%	25.8%
	H29	0.0%	13.3%	5.9%	23.7%	14.5%	28.6%	18.3%
	H28	0.0%	17.4%	20.5%	26.7%	21.8%	29.3%	22.7%
5 まんがを読む	R2	2.5%	10.8%	7.7%	3.6%	4.0%	5.9%	5.4%
	R1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	4.8%	2.2%
	H30	0.0%	0.0%	1.7%	5.8%	2.9%	4.9%	3.6%
	H29	0.0%	13.3%	5.9%	2.6%	7.3%	4.3%	5.3%
	H28	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	9.4%	2.7%	4.3%
6 ゲーム機で 遊ぶ	R2	30.4%	21.5%	36.5%	35.7%	24.6%	28.6%	28.5%
	R1	21.9%	41.7%	43.9%	27.8%	22.0%	14.5%	26.5%
	H30	7.1%	30.0%	16.9%	29.1%	14.6%	13.4%	18.6%
	H29	10.0%	33.4%	26.5%	21.1%	27.3%	15.7%	21.9%
	H28	16.7%	30.4%	25.0%	26.7%	25.0%	26.6%	25.8%
7 テレビを見る	R2	5.1%	4.6%	1.9%	1.8%	4.0%	7.6%	4.8%
	R1	3.1%	0.0%	2.4%	3.7%	3.4%	4.8%	3.3%
	H30	0.0%	0.0%	10.2%	3.5%	5.8%	4.9%	5.5%
	H29	0.0%	0.0%	11.8%	5.3%	9.1%	4.3%	6.3%
	H28	8.3%	13.0%	4.5%	0.0%	9.4%	6.7%	7.3%

※無回答、その他、特別支援の集計は、記載を省略した。

※網掛けは、各学年、各年度の上位回答。



（小学生：集計結果）

本を読むよりやりたいことで最も多かったのは、「ゲーム機で遊ぶ」で、令和2年度は全ての学年において上位の回答でした。

各年度の学年別の上位回答は、次の表のとおりです。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1 年	勉強をする	スポーツをする	友だちと遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ
2 年	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ
3 年	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ
4 年	スポーツをする	友だちと遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ
5 年	ゲーム機で遊ぶ	スポーツをする	スポーツをする	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ
6 年	友だちと遊ぶ	友だちと遊ぶ	友だちと遊ぶ	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ

年度や学年によって、「スポーツをする」や「友だちと遊ぶ」などの理由が上位を占めていますが、全体的には「ゲーム機で遊ぶ」の理由が多い結果となりました。

ICT の活用を視野に入れながら、遊びの要素を上手に取り入れた本の紹介を行うなど、多様な時代における読書のあり方を検討していきます。

### (3) 重点事業の実施状況

#### ①読書通帳の積極的活用

作成及び配布状況

	小学校	中学校
平成 29 年度	新規作成・配布 全校全児童	新規作成・配布 全校全生徒
平成 30 年度	継続・配布 ・全校の新一年生 ・区外転入の児童	継続・配布 ・全校の新一年生 ・区外転入の生徒
令和元年度		
令和 2 年度		

#### ②絵本づくりの推進

絵本づくりワークショップ実施状況

小学生	参加者	実施先
平成 28 年度	1 2 0 人	小学校 1 校 (志村六小)
平成 29 年度	2 2 0 人	小学校 3 校 (志村六小、常盤台小、向原小)
平成 30 年度	4 1 5 人	小学校 6 校 (若木小、常盤台小、中根橋小、 板橋七小、板橋十小、向原小)
令和元年度	1 8 3 人	区立図書館 11 館 (区内在学・在住の小学生)
令和 2 年度	1 1 6 人	

中学生	参加者	実施先
令和元年度	2 1 人	いたばしBOROニャ子ども絵本館 (区立中学在学の中学生)
令和 2 年度	2 3 人	

#### (4) 取組事業に対する評価 (57 事業)

所管課による報告（実績・計画）を毎年進行管理した結果、個別取組に対する評価は表1のとおりとなりました。

引き続き、進行管理が必要な事業は「継続」または「拡充」して計画に反映します。また、「達成」、「順調」により「終了」する事業と、新たに計画に位置付ける「新規」事業を整理し、57 事業から 64 事業へと編成しました。

第2期取組の評価及び第3期取組の目標は、次のように設定します。

##### 第2期取組の評価

- 1 達成（計画どおり実施し、目標を達成したもの）
- 2 順調（計画どおり順調に実施したもの）

##### 第3期計画への反映

- 1 新規（新たに計画に位置付けて、進行管理していくもの）
- 2 拡充（引き続き計画に位置付けて、今後の取組を拡大・充実していくもの）
- 3 継続（引き続き計画に位置付けて、定着化していくもの）
- 4 終了（第2期計画期間に目標を達成したもの。第3期計画で他事業と整理・統合したもの。既に定着しており、第3期計画では進行管理が不要となったもの）

表1 第2期取組事業及び評価

目標	取組	評価	第三期計画への反映
1 子どもの読書のための環境の整備・充実	(1) 図書館整備	達成	終了
	(2) 区民懇談会等の実施	達成	終了
	(3) 図書貸出サービスコーナーの設置	順調	終了
	(4) ホームページの充実・SNSの活用	順調	継続
	(5) 家庭読書の日の充実	順調	継続（定着→充実）
	(6) いたばしBOROニャ子ども絵本館の充実	順調	終了（移転による）
	(7) IC機器の導入	達成	終了
	(8) 児童コーナー（室）の利用時間拡大	達成	終了
	(9) 児童コーナー展示の工夫	順調	拡充（工夫→充実）
	(10) 乳幼児向け蔵書の充実	順調	拡充
	(11) 各施設の読書コーナーの支援	順調	拡充（11～13 整理）
	(12) 親子ふれいブックコーナー	順調	同上
	(13) 各幼稚園の読書コーナーの充実	順調	同上
	(14) 学校貸出資料の充実	順調	拡充
	(15) 読書通帳	順調	継続・新規含む
	(16) 学校図書館全体計画・年間活用計画の作成	順調	終了（定着）
	(17) 学校図書館運営委員会の設置	順調	終了（定着）
	(18) 学校図書館の充実	順調	拡充（資料充実）
	(19) 学校図書館司書機能の充実	順調	終了（定着）
	(20) YA（ヤングアダルト）向け蔵書の充実	順調	拡充



2 子どもの年齢・発達の 段階に応じた取組	(1)ブックスタート	順調	継続
	(2)読み聞かせおすすめ本リストの作成	順調	拡充（年代別記載）
	(3)かるがもタイムの充実	順調	継続
	(4)乳幼児向け館内イベントの開催	順調	拡充
	(5)図書館ボランティアを活用した乳幼児向け事業	順調	拡充（他事業整理）
	(6)「赤ちゃんの駅」等に図書館利用案内	順調	終了（定着）
	(7)親子読み聞かせ講座	順調	拡充
	(8)おはなし会の実施	順調	拡充（9 整理）
	(9)おはなし会の実施	順調	同上
	(10)一日図書館員	順調	拡充
	(11)小学生・中学生向け館内イベントの開催	順調	拡充（年代別記載）
	(12)学校へ出張事業	順調	継続・新規含む
	(13)本の紹介・推薦	順調	拡充（他事業整理）
	(14)児童・生徒自身による読み聞かせ	順調	拡充（他事業整理）
	(15)朝読書の充実	順調	継続（年代別記載）
	(16)読書週間・旬間・月間の設定	順調	継続（他事業整理）
	(17)特別支援学級への図書の配置	順調	拡充
	(18)職場体験	順調	拡充
	(19)書評座談会	順調	継続
3 との家庭・地域・学校 連携による取組	(1)ボランティアを活用した読み聞かせ	順調	拡充
	(2)図書館ボランティアの育成・活用	順調	拡充
	(3)家読の取組	順調	継続（他事業整理）
	(4)区内大学との連携事業	順調	拡充・新規含む
	(5)集団保育における図書館利用	順調	拡充（記載変更）
	(6)図書館を活用した読書活動	順調	継続（他事業整理）
	(7)絵本づくりの推進	順調	継続（記載変更）
	(8)学校図書館間の連携	順調	拡充（他事業整理）
	(9)絵本館学校向け貸出セットの充実	順調	拡充（他事業整理）
	(10)学校図書館連携強化	順調	拡充
	(11)ICTを活用した新しい読書の提案	順調	拡充・新規含む
	(12)PTAや図書館ボランティアによる読み聞かせ	順調	拡充（他事業整理）
4 読書活動から得ら れる学力向上	(1)ボローニャ・ブックフェア in いたばし	順調	継続
	(2)いたばし国際絵本翻訳大賞(中学生の部)の実施	順調	継続
	(3)絵本館PRイベント	順調	拡充（他事業整理）
	(4)読書感想文コンクール	順調	継続
	(5)図書館を使った調べる学習コンクール	順調	継続
	(6)文化・郷土を学ぶ館内イベント	順調	拡充（他事業整理）

## (5) 成果指標

第2期の計画では、平成28年度実施の調査時から、令和2年度には不読率（1か月に1冊も本を読まなかった率）を3割減とすることをめざしました。

### 1 目標値

対 象	平成28年度調査結果	令和2年度目標値
小学生	6.5%	4.6%
中学生	10.5%	7.4%

### 2 不読率の推移（国・都・区一小中別）

小学生	全国	東京都（隔年）	板橋区
平成28年度	4～6年 4.0%		4～6年 8.7% 全体 <b>6.5%</b>
平成29年度	4～6年 5.6%	2年 3.3% 5年 3.7%	2年 2.9% 5年 8.3% 4～6年 9.1% 全体 <b>6.2%</b>
平成30年度	4～6年 8.1%		4～6年 13.6% 全体 <b>9.6%</b>
令和元年度	4～6年 6.8%	2年 2.9% 5年 4.2%	2年 4.3% 5年 9.4% 4～6年 10.1% 全体 <b>7.7%</b>
令和2年度			4～6年 13.8% 全体 <b>10.1%</b>

中学生	全国	東京都（隔年）	板橋区
平成28年度	15.4%		<b>10.5%</b>
平成29年度	15.0%	11.1%	<b>9.5%</b>
平成30年度	15.3%		<b>9.9%</b>
令和元年度	12.5%	9.9%	<b>7.3%</b>
令和2年度			<b>12.2%</b>

### 3 国の動向

国の第四次計画では、「子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境を推進していくことは極めて重要」としています。

文部科学省の調査研究では、中学生までの読書習慣の形成が不十分であることから、高校生になり読書の関心度合いが低下し、スマートフォンの普及等により子どもの読書環境が影響を受けていると分析しています。そして、この分析から第四次計画の主な方策として次の二つをポイントとしています。

- (1) 発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成する。
- (2) 友人同士で行う活動を通じ、読書への関心を高める。

さらに、学校図書館や地域図書館に関連の深いものとして次のものを挙げています。

(学校図書館)

- ・学習指導要領を踏まえた読書活動の推進
- ・学校図書館の整備・充実

(地域図書館)

- ・図書館資料、施設等の整備・充実
- ・図書館における子どもや保護者を対象とした読み聞かせ等の企画・実施
- ・学校図書館との連携・協力

また、「成長段階に応じた取組として、乳幼児、児童、生徒の一人ひとりの発達や読書経験に留意し、家庭、地域、学校において取組が進められることが重要であり、学校種間の接続期において生活の変化等により、子どもが読書から遠ざかることに留意し、学校種間の連携による切れ目のない取組が行われることが重要である」としています。

さらに、家庭における取組としては、「最も身近な存在の保護者が率先して、子どもの読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすことが求められているため、家庭での読み聞かせや一緒に本を読むこと、図書館に出向く等の子どもが読書に親しむきっかけを作ることが重要」としています。

これらの考えを踏まえて、本区における具体的な取組を進めていきます。

## 4 東京都の動向

東京都では、平成15年3月に「東京都子ども読書活動推進計画」（平成15年度～平成19年度）を第一次計画として策定し、平成27年2月に「第三次東京都子供読書活動推進計画」（平成27年度～令和元年度）を策定しています。

第三次計画では、成長段階に応じた取組として、「乳幼児期の読み聞かせ」、「異年齢交流による読み聞かせ」、「図書館での定期的なおはなし会の実施」、「家庭での読み聞かせ」、「保育園・幼稚園・児童館等での読書活動と図書館との連携」、「朝読書や各教科等における読書活動の工夫」、「学校図書館の充実」、「各学級における取組」等を挙げています。

特に、学校図書館は、児童・生徒が読書を楽しめる「読書センター」としての機能、情報の収集・活用・発信を行う「情報センター」としての機能、主体的な学習や学習発表を行う「学習センター」としての機能を有していることから、「学校図書館は、可能な限り児童・生徒や教職員が最大限自由に利活用できるよう、登校時から下校時までの開館に努めることが重要」としています。

また、子どもの読書活動を推進していくうえで、「学校が家庭・地域と連携して地域ぐるみで子どもの読書活動を推進することが重要」としています。公共図書館や保護者、ボランティアと連携し、本の配置や館内のレイアウトを工夫し、それぞれの学校の特徴を生かした図書館にしていくことが期待されています。児童・生徒が本を身近なものと感じられるよう、学級文庫の充実にも配慮することが望まれています。各学級における取組では、「教員による本の紹介」、「ブックトークの実施」、「読み聞かせ」等、様々な工夫により、子どもが本に触れ、読書の楽しさを実感する機会を作ることを大切なこととしています。

さらに、必要な知識を得るための本の選び方や調べ方を学ばせることや、「読書ノート」、「読書会」、「児童・生徒によるおすすめ本の紹介」により、読んだ本について話し合う機会や本から得た知識を基に発表する機会を作る取組も期待されています。これらの考えを踏まえて、本区における具体的な取組を進めていきます

## 第2章 基本方針

### 1 計画の目標

先行き不透明な予測困難な時代の中で、加速度的に進展する情報化への対応や新学習指導要領の着実な実施に向けて、読書の果たす役割を念頭に置きながら、読書活動計画目標を次のとおりとします。

『様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるよう、板橋区の子どもたちの持つ資質・能力を育成するために、読書活動を通じた読み解く力、他者への思いやりと人間関係を築く力を育てる』こととします。

### 2 基本方針

#### (1) 子どもの読書のための環境の整備・充実

乳幼児期のできるだけ早い段階から、絵本をはじめとした本にふれあう機会を、周囲の大人がどれだけ多く与えられるかが重要と言えます。小学生は、6年間の長い学校生活の中で、学校図書館をどれだけ身近な場所として活用し、読書の習慣付けができるかが重要となります。中学生は、学校図書館と多様なメディアを生かして、様々な疑問を調べることで解決する能力が養われることが重要で、いずれも新しい時代に対応した読書環境が必要となります。

区立図書館の11館の積極的なアプローチと情報発信により、児童館、保育所、幼稚園、小学校、中学校、学校図書館等、1日の大半を過ごす関連施設との一体的な取組により、子どもの読書環境の整備・充実をめざしていきます。

## （２）子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

乳幼児期のできるだけ早い段階から、多くの絵本に出会うことは、子どもたちが成長するうえでの貴重な経験となります。特に、「読み聞かせ」は直接心や脳に響き、情緒を豊かにすると言われていています。子どもが興味を引く子どもの年齢にあった本や、長年にわたり読み継がれてきた不朽の名作を、身近な人からの「読み聞かせ」を通して知り得ることが最も大切です。身近な人に読んでもらうことで、一層の喜びや楽しさを感じます。特に、親子のコミュニケーションを深めながら、読んでもらうことを楽しめた子どもは、自分から読むことを自然に身に付けるので、子どもたちが本から離れていくことはないと考えます。

子どもたちに与える影響力や子どもたちの持つ適応力を見極めながら、子どもの年齢・発達の段階に応じた効果的な取組を進めていくよう、理解・啓発に努めます。

## （３）家庭・地域・学校との協力、連携による取組

成長段階、発達段階に応じた読書環境の整備は、インターネットやゲームなど多様化するメディアや、それぞれの生活環境によって大きな影響を受けます。その中で、日常的に様々な本との出会いを実現するためには、家庭や地域の大人をはじめ、社会全体で読書の普及に努めることが大切です。

学校教育においても、社会に開かれた教育課程の実現として、学校図書館を活用した読書習慣の形成と探究的な学習の実現に取り組むことが重要です。

区立図書館の取組はもちろんですが、教育委員会をはじめとする行政機関が家庭・地域・学校と連携して積極的に取組んでいきます。

### 3 計画の期間

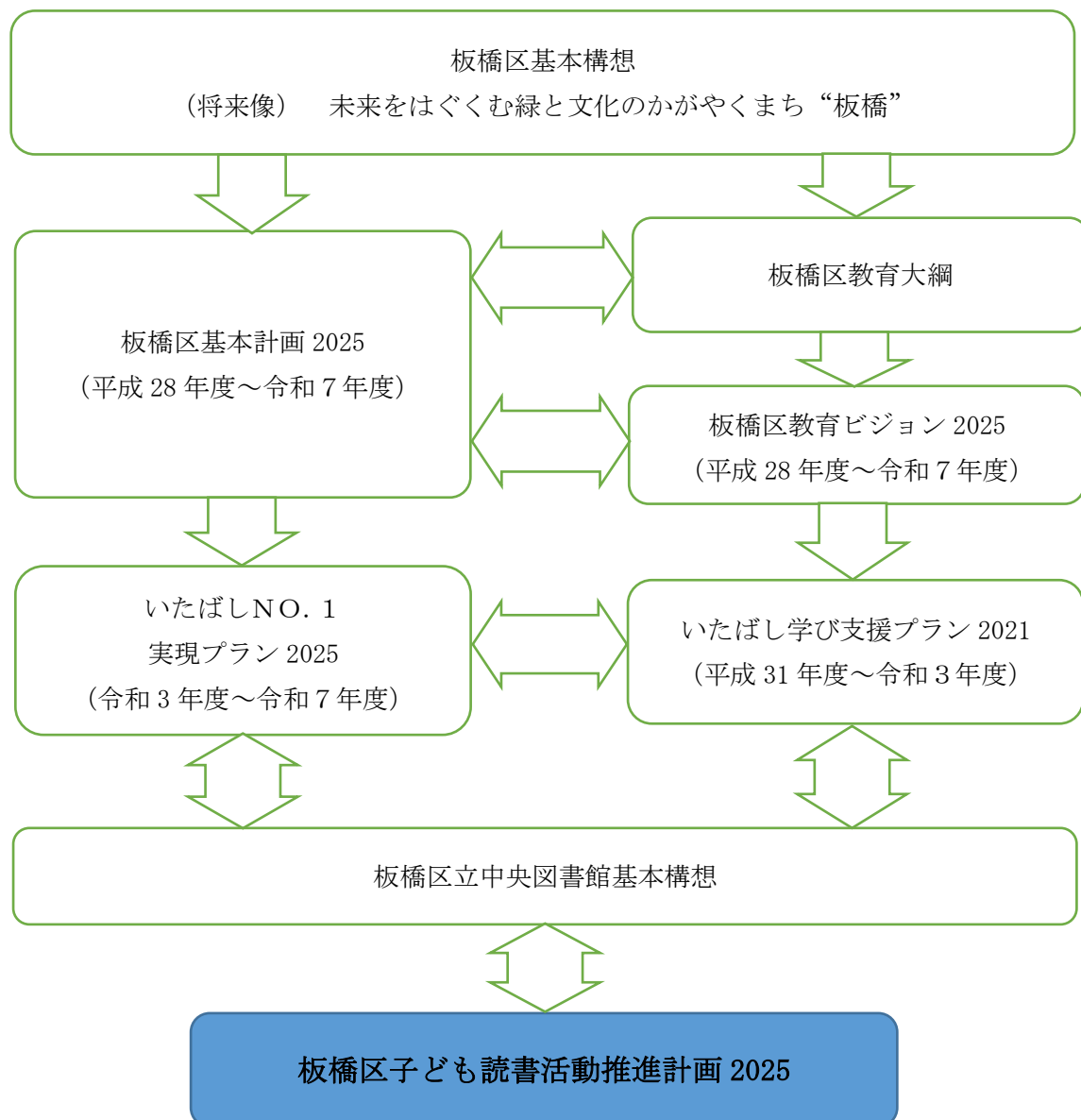
第1期の計画から計画期間を5か年として策定し、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度までの5か年を第2期計画として策定しています。本計画においても、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間を計画期間とします。

平成 27 年度 (2015)	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)	令和 5 年度 (2023)	令和 6 年度 (2024)	令和 7 年度 (2024)
	国	「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」								
第三次 (平成 25 年度～平成 29 年度)			第四次 子供の読書活動の推進に関する基本的な計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)				第五次 (令和 5 年度～令和 9 年度)			
	都	「東京都子供読書活動推進計画」								
第三次 東京都子供読書活動推進計画 (平成 27 年度～令和元年度)										
	区	「板橋区子ども読書活動推進計画」								
第二期 板橋区子ども読書活動推進計画 2020 (平成 28 年度～令和 2 年度)						第三期 板橋区子ども読書活動推進計画 2025 (令和 3 年度～令和 7 年度)				

## 4 計画の位置付け

板橋区では「板橋区基本構想」において、将来像を「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」としてその実現をめざし、板橋区教育委員会では「板橋区教育ビジョン 2025」、「いたばし学び支援プラン 2021」を策定し、取組を進めています。

「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」は、「いたばし学び支援プラン 2021」の下位計画として、板橋区における子どもの読書活動推進に向けた施策の方向性と取組を計画するものとしています。





## 5 重点施策

子どもの読書活動を推進する際に、特に重視すべきは、①乳幼児期のできるだけ早い段階から、読書に親しむ環境をつくること、②本を読むことを楽しみながら読書を習慣化させること、③教育委員会をはじめとする行政機関が家庭、地域、学校と連携して取り組むこと、この3点に重点を置き、読書活動を推進していきます。

令和3年3月開館の新しい中央図書館は、いたばしBOROニア絵本館を併設し、区がめざす板橋ブランドでもある「絵本のまち板橋」の発信拠点となり、区立図書館全館で事業を展開します。これを機に、絵本を生かした取組を重点施策として位置付けます。

「絵本のまち板橋」では次の3つのビジョンに沿った施策を、子どもの読書活動の推進につなげます。第3章では、具体的な取組を掲載（☆印は重点施策に基づく事業）しています。本を楽しむとともに本を読むことが習慣となるよう、幅広い世代からの協力と理解を得ながら進めていきます。

### 絵本のまち板橋

3つのビジョン

#### 作（つく）る

##### 絵本との出会いの場を作る

子どもたちが絵本を身近に手にする出会いの場やきっかけを作る取組を展開します。

家庭における読み聞かせが充実するよう、子どもの年齢に応じた本の提供を積極的に行い、早期からの本との触れ合いを広げていきます。

#### 繋（つな）ぐ

##### 絵本で親子のコミュニケーションを深め、家庭の輪を繋ぐ

新たな生活様式や働き方の多様化、個々の多様性が広がる中で、親子の繋がりも変化しています。絵本をとおした親子での会話やコミュニケーションが深まるよう、絵本が身近にあるもの、家庭の輪を繋ぐものとしします。

#### 伝（つた）える

##### 絵本文化を築き、人から人へ伝える

家庭・地域・学校と図書館が一体的に行う取組により、子どもから大人まで、あらゆる世代の交流を活発にし、人から人へ絵本の良さを伝えていくものとしします。

## 6 進行管理

第3期計画における取組事業（29 ページ～48 ページ）も引き続き、5年間の年次計画を設定して進行管理を行います。また、新規事業は表1のとおりです。

毎年度、各主管課に対し、事業の実施結果、評価及び翌年度の実施計画を調査し、進行状況を把握しながら成果を検証していきます。

第3期取組の年次計画で使用する言葉の定義は以下のとおりです。

### 現状の状況

- 1 なし（令和2年度現在実施していないもの）
- 2 検討（令和2年度中に検討を始めたもの）
- 3 配布・購入・作成・発行・周知（令和2年度現在実施している具体的内容）
- 4 実施（令和2年度現在実施しているもの）
- 5 数値で記載（令和2年度現在実施しており、数値目標化できるもの）

### 令和3年度から令和7年度に計画

- 1 検討（新たに計画に位置付けて検討していくもの）
- 2 企画・準備（新たに計画に位置付けて実施していくもの）
- 3 実施（今期計画期間から実施していくもの）
- 4 拡充（引き続き計画に位置付けて、今後の取組を拡大・充実していくもの）
- 5 継続（引き続き計画に位置付けて、定着化していくもの）
- 6 数値で記載（令和2年度現在実施しており、数値目標化できるもの）

表1 第3期計画新規事業

新規取組	ページ	取組の対象
1 ブックスタート（絵本）の有効活用	29	乳用児
14 子ども司書制度の創設	33	小学生
15 読書通帳活用に向けた表彰制度の創設	33	小学生
40 学習スペースの提供	41	中高生世代
41 ティーンズの居場所づくり	41	中高生世代
46 デイジー資料の貸出開始	43	特別な支援を必要とする子ども
51 多言語資料の有効活用	44	特別な支援を必要とする子ども
52 誰もが暮らしやすいダイバーシティ社会の推進	44	特別な支援を必要とする子ども
53 GIGA スクール構想による ICT の活用	45	家庭・地域・学校との連携
54 商店街とのコラボによるイベント実施	45	家庭・地域・学校との連携
55 図書館サポーターによる図書館運営	45	家庭・地域・学校との連携
56 本を活用した質の高い教育の持続	46	家庭・地域・学校との連携

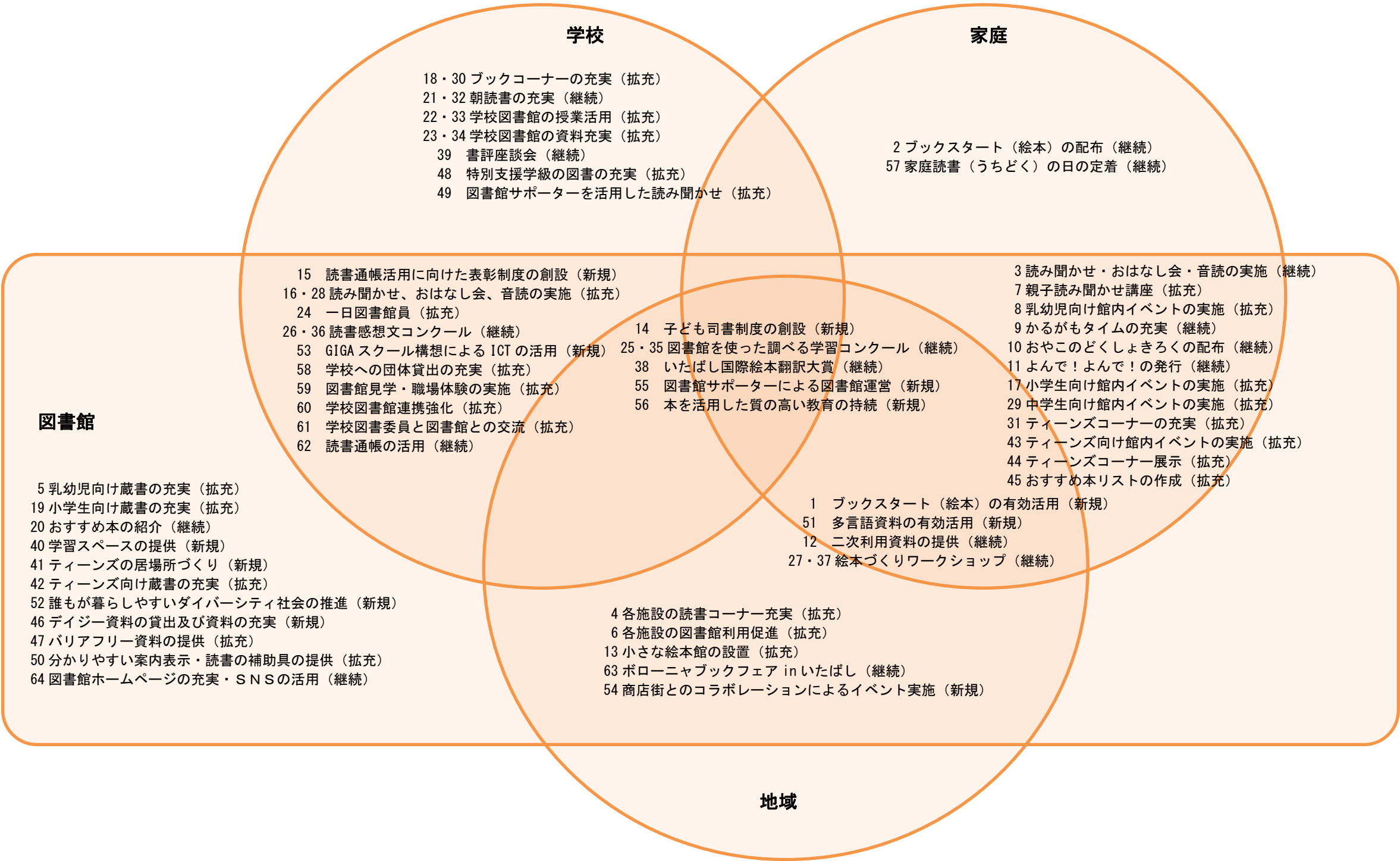


板橋区子ども読書活動推進計画 2025 アクションプラン

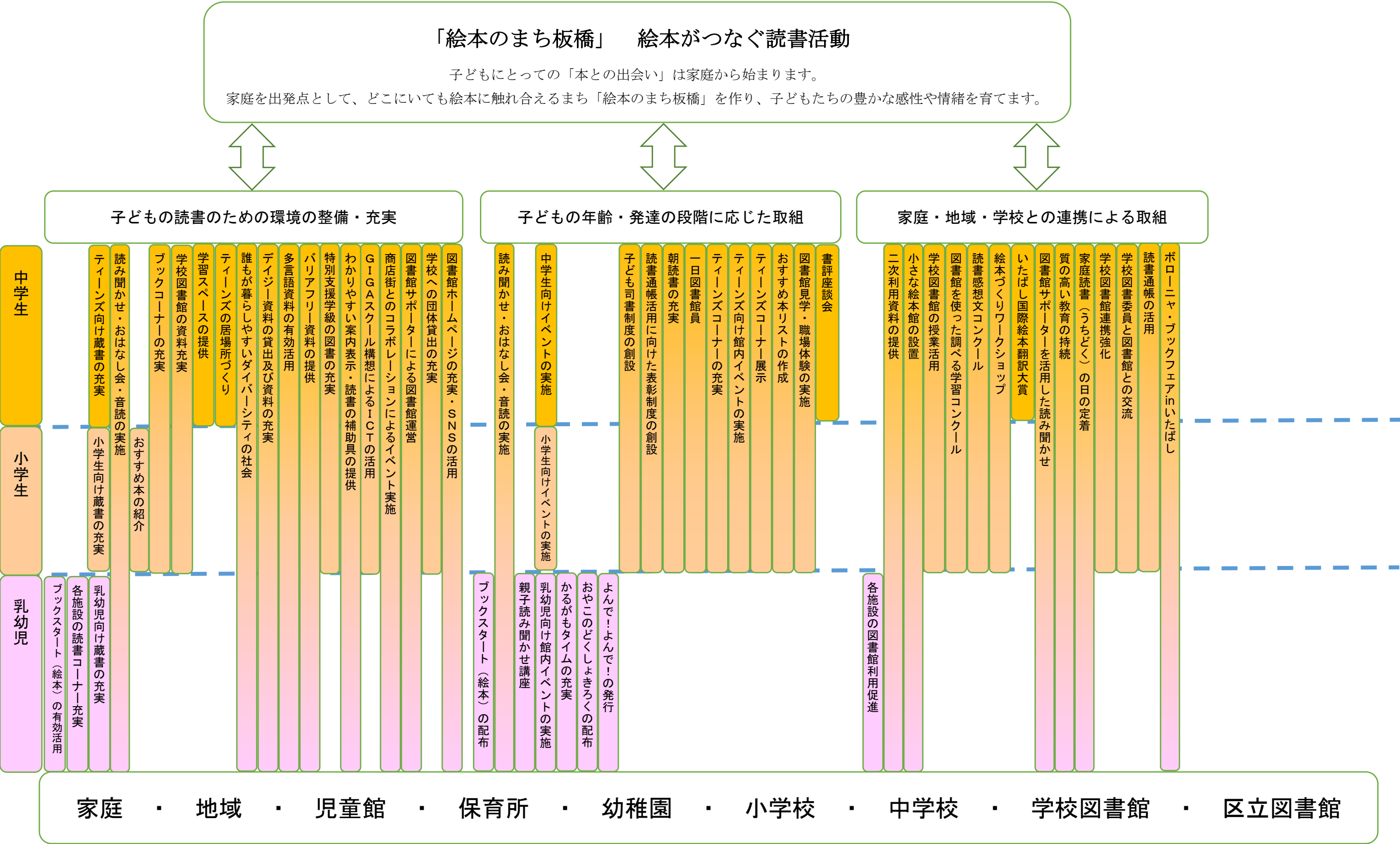
アクションプラン（場所）

「絵本のまち板橋」 絵本がつなぐ読書活動

子どもにとっての「本との出会い」は家庭から始まります。  
家庭を出発点として、どこにいても絵本に触れ合えるまち「絵本のまち板橋」を作り、子どもたちの豊かな感性や情緒を育てます。



アクションプラン（年齢）



## 第3章 具体的な取組

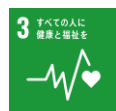
本計画の基本方針を踏まえて、「子どもの読書のための環境の整備・充実」の視点を整理し、「1 子どもの年齢・発達の段階に応じた取組」及び「2 家庭・地域・学校との協力、連携による取組」を具体的な取組内容とします。

また、SDG s を具体的な取組の体系に沿って整理することで、組織横断的な施策展開を導き、事業に取り組んでいくこととします。



SDG s は、2015 年 9 月に国連において採択された、17 のゴールと 169 のターゲットからなる持続可能な開発目標です

本計画では、連携している取組に応じて次のSDG s のアイコンを付しています。



### ゴール 3

あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。



### ゴール 4

全ての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。



### ゴール 5

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び少女の能力強化を行う。



### ゴール 10

各国内及び各国間の不平等を是正する。



### ゴール 16

持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。



### ゴール 17

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

## 1 子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

本計画策定において、第三期検討委員会では、「第二期計画の取組状況」、「小・中学校における不読率の推移」、「図書館における事業の実施状況」、「児童館・保育園・幼稚園での読書活動状況」、「保護者を対象にした読書についてのアンケート結果」などを議題にして検討してきました。

子どもの成長過程における早い段階から、「読み聞かせ」や「音読」をはじめめることは、大人にも子どもにも大変よいことであり、できる限り中学生になる頃まで「読み聞かせ」に慣れ親しませ、楽しませることが大切である、という考え方を基にして共通理解を図りました。

その他にも、「小・中学校における学校図書館の利用状況」、「朝読書の実施状況」について情報交換し、さらには、「学校図書館と公共図書館の連携」、「調べ学習に対する取組」、「学校への団体貸出」など、各実施状況について共有してきました。

検討を進めていく中で、「読書で得られる楽しさ」を伝えることが大切な視点であること、「読んだ冊数」の多さだけで評価するのではなく、心に残る1冊の本に出会えることが「読書の醍醐味」であること、子どもたちは自分の興味のあることには、飽くなき探究心があるので、その原動力が本とつながるように、読書環境を整備することが大事であることを共有しました。

また、今後の図書館運営については、次のことを視野に入れた取組も必要であると共有しました。

- ・デジタル化の進展を見据えた電子書籍の利活用
- ・学習漫画やライトノベルの所蔵を充実
- ・多言語世帯に対応した資料の充実
- ・ティーンズ世代の魅力ある居場所作りへの取組 など

これらの取組と、第二期計画の基本的方針を踏襲し、「子どもの年齢・発達の段階に応じた取組」により、個別の事業を展開していきます。

## (1) 乳幼児を対象とした取組



乳幼児期には、親や周囲の大人が話しかける様々な言葉や表情が、子どもの心や脳に響き、豊かな感情の成長が見られるようになります。また、身体の成長により活動的になり、遊びなどの体験が増えていくと感性が豊かになります。

絵本による読み聞かせは、子どもが本を楽しむことを心で感じ取る、とても大切なスタートラインとなるものです。親子でのコミュニケーションを大切にしながら、遊びの要素を取り入れた「読み聞かせ」が広く定着するよう、次の事業に取り組んでいきます。

## 13 事業

取組	1 ブックスタート（絵本）の有効活用 ☆					【新規】
目的	ブックスタート事業の普及・PRに努める。			中央図書館		
内容	子どもが1歳になるまでの家庭に配布している絵本2冊を、区立児童館及び区立保育園に毎年配布します。各園での「読み聞かせ」に利活用し、作品の紹介や良さを伝えながら、「ブックスタート」事業の普及・PRに努め、図書館での配布増加につなげます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	配布	継続	継続	継続	継続

取 組	2 ブックスタート（絵本）の配布 ☆					【継続】
目 的	早い段階から家庭での読み聞かせにつなげる。				中央図書館	
内 容	子どもが1歳になるまでに母子手帳を区立図書館に持参すると、絵本2冊と読み聞かせのアドバイス冊子の入ったバックをプレゼントします。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	配布	継続	継続	継続	継続	継続

取組	3 読み聞かせ・おはなし会・音読の実施 ☆					【継続】
目的	各施設での取組を広げる。				各所管課	
内容	区立児童館、区立保育園、幼稚園では、職員や図書館サポーターなどによる「読み聞かせ」や「おはなし会」などを実施しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続



取 組	4 各施設の読書コーナー充実 ☆					【拡充】
目 的	資料を充実させて家庭読書につなげる。				各所管課	
内 容	区立児童館（絵本のひろば）、区立保育園（親子ふれいブックコーナー）、幼稚園の各施設で絵本などを毎年購入し、資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	購入	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	5 乳幼児向け蔵書の充実 ☆					【拡充】
目 的	年齢別に応じた資料を充実する。				中央図書館	
内 容	乳児向け、幼児向けの年齢に応じた絵本の蔵書を充実させます。また、テーマ展示や企画展示などをとおして、絵本の紹介を積極的に行います。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	実施	拡充	拡充	拡充	充実	充実

取 組	6 各施設の図書館利用促進					【拡充】
目 的	図書館への来館機会を増やす。				各所管課	
内 容	区立保育園、幼稚園のお散歩コースで、図書館に来館した乳幼児に絵本を紹介するなど、図書館利用を促進します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	7 親子読み聞かせ講座 ☆					【拡充】
目 的	家庭での読み聞かせを広げる。				中央図書館	
内 容	区立図書館では、乳幼児の親子を対象に、遊びの要素を入れた読み聞かせの実践と絵本の紹介を行い、家庭での読み聞かせの輪を広げています。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	9 館	10 館	全 11 館	全 11 館	全 11 館	全 11 館

取 組	8 乳幼児向け館内イベントの実施					【拡充】
目 的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内 容	季節の行事（七夕・クリスマス）、かるがもタイム、赤ちゃんおはなし会、手遊び、わらべうたなど、様々なイベントを実施しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取組	9 かるがもタイムの充実					【継続】
目的	乳幼児と保護者の利用推進につなげる。				中央図書館	
内容	周囲に気兼ねなく安心してご利用いただけるよう、区立図書館では乳幼児を連れた親子の優先時間帯を設けています。図書館によっては、時間帯にあわせたイベントを実施しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	10 おやこのどくしょきろくの配布					【継続】
目 的	読み聞かせのきっかけ作りにする。					中央図書館
内 容	おすすめの本の紹介と、妊娠中に読んだ本や赤ちゃんに読み聞かせした本を記入できる通帳を配布しています。子どもへのメッセージも書けて、大きくなった時のプレゼントとしても使えます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	配布	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	11 よんで！よんで！の発行 ☆					【継続】
目 的	年齢に応じた不朽の名作品を後世に伝える。					中央図書館
内 容	0～2歳に読んであげたい絵本のリスト、3～5歳に読んであげたい絵本のリストの2種類を作成し、年齢にあわせたおすすめの絵本を紹介しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	発行	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	12 二次利用資料の提供					【継続】
目 的	不要となった図書館資料を有効活用する。					中央図書館
内 容	図書館で不要となった絵本などの有効活用を目的に、区立児童館、区立保育園、近隣の幼稚園など、関連施設に無償で提供しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	13 小さな絵本館の設置 ☆					【拡充】
目 的	絵本のまちいたばしを展開する。					中央図書館
内 容	区内の施設や店舗に、絵本を置き、買い物ついでや待ち時間などに絵本を楽しめるスポット（小さな絵本館）を設置しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	9か所	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充



親子読み聞かせ講座（中央図書館）



ブックスタート（絵本）



おやこのどくしょきろく

## (2) 小学生を対象とした取組



小学生は、学年が上がるにつれて、読書に対して感覚的な反応から論理的に物事を把握しようとする反応へと変化していきます。自分一人で作品を選んで「読む」ことができるようになるまで、よい作品との出会いを周囲の大人からの「読み聞かせ」により積み重ねることで、耳から聞く楽しさ、作品の味わいのよさを感じることができるようになります。

**低学年**は、情操環境を育てながら、親との関係や友だちとのコミュニケーションを図り、「聞く」こと、「見る」ことの楽しさを感じるようになります。また、作品と一緒に読む「音読」や「群読」のような体験が充実するので、楽しみながら多くの言葉を覚えるようになります。

**中学年**になると、自分の力で考える能力や、周囲とのコミュニケーションから社会性が身に付くため、本の世界を「理解」し、自分なりの「イメージ」や「想像力」が膨らむので、作品をとおした様々な疑似体験を楽しめるようになります。また、友だちや家族と本を話題にした会話を楽しむことができるようになり、読書の幅も広がります。

**高学年**になると知識が更に深まり、客観的な認識力が高まります。低学年では作品の理解がまだ難しい物語の本を「読む」ことや、新聞や雑誌など多様なメディアから自分の興味をもったことを調べる、「知る」ことの楽しさを実感できるようになります。また、自分で作品を「選ぶ」楽しみや、作品に「共感」することを覚えて、毎日の生活を実り多きものにする感受性豊かな心の成長につながります。

学年が上がるにつれて、読書の楽しみ方は変化していきますが、小学校の全児童を対象とした、「読み聞かせ」や図書館が行うイベントを中心に、各種事業に取り組んでいきます。

## 14 事業

取 組	14 子ども司書制度の創設 ☆						【新規】
目 的	子どもの資格制度による読書活動を推進する。				中央図書館・産業振興課		
内 容	区内印刷企業と産業振興課との協働・連携事業として、「板橋区版子ども司書資格『よむりえ』（仮称）」の認定制度を創設します。資格取得コースを開設し、受講修了者に認定証を発行。登録制度として、資格取得者ならではの読書推進活動に貢献してもらいます。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	なし	検討	企画準備	実施	継続	継続	

取 組	15 読書通帳活用に向けた表彰制度の創設					【新規】
目 的	通帳の活用の更なる普及、定着に努める。				中央図書館	
内 容	読書通帳（小学生用・図書館発行）の活用・定着に向けて、エントリーした小学生の中から 1 年間に最も使用貢献した上位者を表彰します。実施にあたっては、学校に周知（ポスター・チラシ）を依頼し、応募者を図書館にエントリーします。読書通帳満了冊数、読破ページ数、心に残る作品の推薦文の総合得点を順位付けし、年間ランキングを決定します。上位者を図書館で表彰（賞状・記念品授与）し、年間ランキングの発表（受賞者の写真付き）を館内に掲示し、ホームページ等で公表します。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	なし	企画準備	実施	継続	継続	継続

取組	16 読み聞かせ・おはなし会・音読の実施 ☆						【拡充】
目的	地域における読書活動を推進する。					中央図書館・小学校	
内容	区立図書館では、毎週「おはなし会」を実施しています。絵本の読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリング、英語おはなし会などもあります。小学校では、学校の授業や担任による「読み聞かせ」、あいキッズ事業での「読み聞かせ」や「おはなし会」を実施しています。また、区立図書館では、ホームページでの「音読」の動画配信や「音読の講座」を実施しています。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充	

取 組	17 小学生向け館内イベントの実施					【拡充】
目 的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内 容	区立図書館では、ブックトーク、アニメーション、エプロンシアター、パネルシアター、工作、スタンプラリー、季節のおはなし会など、館内で小学生を対象にした各種イベントを実施しています。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	18 ブックコーナーの充実					【拡充】
目 的	学校内の読書環境を充実する。				学務課・小学校	
内 容	区立小学校に設置されている「学校図書館」の資料を購入するほか、教室に「学級文庫」を設置するなど、資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	19 小学生向け蔵書の充実					【拡充】
目 的	年齢別に応じた資料を充実する。				中央図書館	
内 容	低学年・中学年・高学年向けの図書をバランスよく購入し、小学生向けのおすすめ本・テーマ本・特集本の展示をはじめ、表紙の面だし、POP、本のおびにより、探しやすい、わかりやすい紹介をします。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	購入	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	20 おすすめ本の紹介					【継続】
目 的	年齢に応じた作品を紹介する。				中央図書館	
内 容	小学生向けおすすめ本（低学年・中学年・高学年）リストを作成して紹介するほか、洋書、調べる学習用資料の紹介を行います。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	21 朝読書の充実						【継続】
目的	学校での朝読書を継続する。					指導室・小学校	
内容	区立小学校全校、全学年、全クラスでの朝読書を継続して実施します。 朝読書の支援が必要な場合は、区立図書館から図書館サポーターを派遣します。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	実施	継続	継続	継続	継続	継続	

取組	22 学校図書館の授業活用						【拡充】
目的	学校図書館の授業利用を増やす。					指導室・小学校	
内容	学校図書館を授業で活用していくことで、今まで以上に児童の図書館利用につながることができます。色々な本を知る、調べる時間を増やして、本をとおした身近な居場所となる環境を作ります。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充	

取組	23 学校図書館の資料充実						【拡充】
目的	資料購入を充実し、個別利用を高める。				学務課・小学校		
内容	学校図書館長（校長）の経営方針のもと、学校司書の管理・運営による資料の選定・購入に努め、所蔵バランスや需要の高い資料の充実に努めます。本を楽しむ、調べものに活用する、進路の参考にするなど、身近な情報源として活用します。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	購入	継続	継続	継続	継続	継続	

取組	24 一日図書館員					【拡充】
目的	職場体験をとおして図書館を知ってもらう。				中央図書館	
内容	小学生を対象に、夏休みなどの学校休業日に、一日図書館員を体験してもらい、図書館の魅力や楽しさを知ってもらいます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	8館	9館	10館	全11館	全11館	全11館

取組	25 図書館を使った調べる学習コンクール					【継続】
目的	作品作りの過程で調べる学習を身につける。				中央図書館・小学校	
内容	公益財団法人図書館振興財団主催の全国コンクールに、地域コンクールの位置付けとして区立図書館主催により、小学校全校に作品を募集しています。また、各図書館で夏休み期間中に「調べる学習相談会」を実施しているほか、毎年12月に、全国推薦作品の受賞者を表彰しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	26 読書感想文コンクール					【継続】
目的	読書意欲を高める。				中央図書館・小学校	
内容	小学校では、コンクールを毎年実施しています。 「子ども読書年」を記念して、昭和54年度から入選者の表彰を行うようになり、現在は、「図書館を使った調べる学習コンクール」との同時開催として、毎年12月に表彰式を実施しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	27 絵本づくりワークショップ ☆					【継続】
目的	作品を作る楽しさと本の魅力を伝える。				中央図書館	
内容	小学生を対象としたワークショップを、区立図書館で開催しています。 絵本製作の全ての工程を自ら行い、作品を完成させることで、絵を描くことの楽しさ、本を作ることの魅力を体感してもらいます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続



えいごおはなし会 (中央図書館)



ハロウィンおはなし会 (西台図書館)



小学生向けおすすめ本リスト



本のおび大賞展示 (赤塚図書館)



児童コーナー展示 (高島平図書館)



調べる学習基本のき (氷川図書館)



小学生向け絵本づくりワークショップ (中央図書館)



## (3) 中学生を対象とした取組



中学生は、身体の成長や変化が大きく表れ、心の成長も飛躍的に進みます。自分と向き合う様々な作品を通じて、人生や自己実現について深く考え、大人の感覚を身に付けていきます。

周囲からの影響を大きく受けるこの年代は、メディアの情報やトレンドなど色々なことに興味を示すため、膨大な情報量に混乱することなく、選択や判断を見誤らない正しい知識を身に付けることが必要です。

中学生には、「職場体験」や「ビブリオバトル」等の体験型イベントを中心にした、次の事業に取り組んでいきます。

## 13 事業

取 組	28 読み聞かせ・おはなし会・音読の実施 ☆						【拡充】
目 的	地域における読書活動を推進する。				中央図書館		
内 容	学校からの要請により、図書館スタッフや図書館サポーターを派遣して、「ストーリーテリング」、「英語おはなし会」などを実施します。 また、区立図書館では、ホームページでの「音読」の動画配信や「音読の講座」を実施しています。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充	

取 組	29 中学生向け館内イベントの実施					【拡充】
目 的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内 容	ブックトーク、ビブリオバトル、書評座談会、本のおび大賞など、館内で中学生を対象にした各種イベントを実施しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	30 ブックコーナーの充実					【拡充】
目 的	学校内の読書環境を充実する。				学務課・中学校	
内 容	区立中学校に設置されている「学校図書館」の資料を購入するほか、教室に「学級文庫」を設置し、資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充



取組	31 ティーンズコーナーの充実					【拡充】
目的	ティーンズの居場所を魅力あるものにする。				中央図書館	
内容	区立図書館のティーンズコーナーに「ライトノベル」や新聞、雑誌などの多様なメディア資料や、中学生向けおすすめ本・テーマ本の展示を充実します。ティーンズ自ら作成する「POP」や「本のおび」を図書館に展示したり、図書館スタッフとコーナーの装飾を製作するなど、ティーンズ自ら居場所を手掛ける体験を提供します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	32 朝読書の充実						【継続】
目的	学校での朝読書を継続する。					中学校	
内容	区立中学校全校、全学年、全クラスでの朝読書を継続して実施します。 朝読書の支援が必要な場合は、区立図書館から図書館サポーターを派遣します。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	実施	継続	継続	継続	継続	継続	

取組	33 学校図書館の授業活用					【拡充】
目的	学校図書館の授業利用を増やす。				中学校	
内容	学校図書館を授業で活用し、今まで以上に生徒の図書館利用につなぎます。様々な本を知ることができるよう、調べる機会を増やし、本が身近なものとなる環境を整えます。また、放課後の学習スペースとして開放するなど、今まで以上に生徒の図書館利用を促進します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取組	34 学校図書館の資料充実					【拡充】
目的	資料購入を充実し、個別利用を高める。				学務課・中学校	
内容	学校図書館長（校長）の経営方針のもと、学校司書の管理・運営による資料の選定・購入に努め、所蔵バランスを考えながら需要の高い資料の充実に努めます。それにより、本を楽しむ、知識を習得する、進路の参考にするなど、本を身近な情報源としていきます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

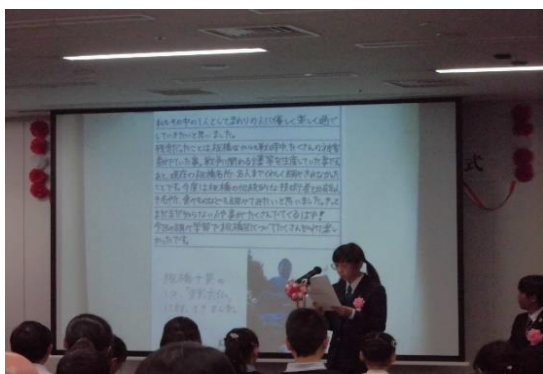
取組	35 図書館を使った調べる学習コンクール					【継続】
目的	作成の過程で調べる習慣・必要性を身につける。			中央図書館・中学校		
内容	小学校と同様に、区立図書館主催により、中学校全校に作品を募集しています。調べ学習を進めやすくするために、学校や生徒に作品のつくり方のサポートを行います。また、毎年12月に表彰式を行い、受賞者のモチベーションを高めています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	36 読書感想文コンクール					【継続】
目的	読書意欲を高める。				中央図書館・中学校	
内容	中学校では、コンクールを毎年実施しています。 「子ども読書年」を記念して、昭和54年度から入選者の表彰を行うようになり、現在は、「図書館を使った調べる学習コンクール」との同時開催として、毎年12月に表彰式を実施しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	37 絵本づくりワークショップ ☆					【継続】
目的	絵本製作体験の魅力を伝える。				中央図書館	
内容	中学生を対象としたワークショップを開催しています。区内印刷・製本企業の協力により、本格的な絵本製作が体験できます。完成した作品は、「いたばし子ども絵本展」で展示するほか、中央図書館でも紹介しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	38 いたばし国際絵本翻訳大賞（中学生部門） ☆					【継続】
目的	語学を堪能し英語力を身につける。				中央図書館	
内容	平成6年から、外国の文化に触れ国際理解を育むために英語とイタリア語の絵本の翻訳作品を募集するコンテストを実施しています。 平成12年から、国際理解を深め、表現力や英語力を高めることを目的に、中学生部門（英語の翻訳のみ）を設けて実施し、受賞者を表彰しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	39 書評座談会					【継続】
目的	学校における読書活動を活発化する。				中学校	
内容	中学校（教育研究会国語部）主催で年1回、各中学校の代表生徒が、課題図書に対して書いた読書感想文を基に話し合い、作品への理解を深め交流しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続



「読書感想文コンクール」及び  
「図書館を使った調べる学習コンクール」表彰式



中学生向け絵本づくりワークショップ



いたばし国際絵本翻訳大賞



職場体験での展示



YA コーナー（成増図書館）



YA コーナー（成増図書館）

## (4) 中高生（ティーンズ）世代を対象とした取組



中高生の興味や話題は娯楽が中心となり、映画やドラマ、音楽、ファッションなど、トレンド情報に憧れをもちます。そのため、友だちや周囲の目を気にした言動が増えていきます。

また、インターネット環境やスマートフォンの普及により、ゲームや動画などを見て過ごす時間が増えている一方、学習塾や習い事の多忙な日々を送る中高生も多くいます。

様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、中高生に必要な情報や有益な情報には、常にアンテナを張る必要があります。また、学習スペースの提供や、友だちと楽しめる居場所作りなど、中高生の感性をキャッチし、工夫を凝らしたアプローチで、次の事業に取り組んでいきます。

## 6 事業

取組	40 学習スペースの提供					【新規】
目的	図書館の利用促進につなげる。				中央図書館	
内容	区立図書館の視聴覚室などを利活用して、中高生の勉強会や中高生に限定した専用時間帯を設定するなど、学習利用の環境整備を進めます。また、中央図書館では3階に学習ルームを設置するほか、グループ学習などに使用できるティーンズルームを2階に設置します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	2館	2館	3館	4館	5館	6館

取組	41 ティーンズの居場所づくり					【新規】
目的	図書館内に世代間の交流の場を作る。				中央図書館	
内容	児童コーナー、一般図書コーナーとは別に、図書館内にティーンズ専用のフロアやコーナーを設置します。ティーンズが好む資料や情報を集め、世代間の交流や情報交換の場として活用します。中高生の活動の発表の場や発信拠点とするほか、ティーンズ自らコーナーづくりを手掛けるワークショップを立上げ、図書館スタッフと一緒に進めていきます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	企画準備	実施	継続	継続	継続	継続

取組	42 ティーンズ向け蔵書の充実					【拡充】
目的	年齢別に応じた資料を充実する。				中央図書館	
内容	ティーンズ向け雑誌、ライトノベル、学習漫画、スポーツ、音楽など、ティーンズ世代に人気の高いジャンルの資料を充実させ、ティーンズの来館利用率を高めます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	購入	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	43 ティーンズ向け館内イベントの実施					【拡充】
目 的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内 容	ビブリオバトルなどの参加型・体験型のイベントを中心に、ティーンズ向け館内イベントを実施します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取組	44 ティーンズコーナー展示					【拡充】
目的	ものづくりをとおして本の魅力を発信する。				中央図書館	
内容	中学生が職場体験時に製作した POP、ディスプレイ作品、ティーンズを集めたワークショップで製作した作品を展示しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取組	45 おすすめ本リストの作成					【拡充】
目的	年齢に応じた名作品を後世に伝える。				中央図書館	
内容	ティーンズにおすすめしたい本のリストを作成します。また、ティーンズの投票によるランキング作品の紹介をしています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	作成	継続	継続	継続	継続	継続



ティーンズコーナー（西台図書館）



高校生とのコラボ展示（高島平図書館）



## (5) 特別な支援を必要とする子どもたちへの取組



読書を励行していくうえでは、様々な障がいに対する配慮が必要とされます。障がいのある子どもたちには、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障がい、情緒障がい、ASD（自閉症スペクトラム障がい）、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）のほか、学習面又は行動面において困難のある子どもで発達障がいの可能性のある人も含まれています。

視覚障がい者には、資料の充実に向けて、令和元年度「サピエ」に登録し、点字及びデイジーデータをダウンロードできるよう整備しました。また、さわる絵本、布絵本、LLブック、大活字本、点字図書、デイジー図書を提供しています。特別な配慮を必要とする子どもたちには、「読み聞かせ」の実施や「学級文庫」を設置するなど、本の充実を図ります。

障がいとは違う視点になりますが、子どもたちの多様化には個人の様々な個性、あらゆる考え方や生き方を尊重する、偏見や誤解のない正しい理解と知識が必要です。LGBTやマイノリティー等について学べる機会と資料の提供を充実していきます。また、日本語を母国語としない多言語の世帯や子どもたちに対する支援が必要とされています。日本語や日本文化の理解に加えて、異文化理解や多文化共生の考え方が根付くような取組を含めて、次の事業に取り組んでいきます。

## 7 事業

取組	46 デイジー資料の貸出及び資料の充実					【新規】
目的	障がいに応じたサービスを展開する。				中央図書館	
内容	中央図書館では、視覚障がい者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に資料提供できるよう、令和元年度「サピエ」に登録し、点字及びデイジーデータをダウンロードできる環境を整備しました。令和3年度から中央図書館所蔵で貸出を開始し、毎年 100 タイトルの資料を増やしながら資料の充実に努めます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	200 作品	300 作品	400 作品	500 作品	600 作品

取 組	47 バリアフリー資料の提供					【拡充】
目 的	障がいに応じたサービスを展開する。				中央図書館	
内 容	区立図書館では、障がい者に配慮した資料（さわる絵本、布絵本、LLブック、大活字本、点字図書、デージー図書）を提供しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	48 特別支援学級の図書の充実					【拡充】
目 的	障がいに応じた読書を提供する。				小学校・中学校	
内 容	いつでも好きな時に本が読める「学級文庫」を設置し、本に興味を持てるような資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	49 図書館サポーターを活用した読み聞かせ					【拡充】
目 的	読み聞かせの楽しさを伝える。				中央図書館・小学校	
内 容	区立図書館から図書館サポーターを派遣し、学校司書や教師と連携して、特別支援学級での「読み聞かせ」を実施します。					
年次計画	現状	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取 組	50 分かりやすい案内表示・読書の補助具の提供					【拡充】
目 的	読書のバリアフリー化を図る。				中央図書館	
内 容	区立図書館では、本などを探す目印が容易となる案内表示を行います。 また、拡大読書機、リーディングトラッカーなど、必要な補助具の貸出しを行います。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	51 多言語資料の有効利用					【新規】
目 的	多言語世帯への生活・語学支援を行う。				中央図書館	
内 容	多言語の世帯にある不要になった外国語の絵本や資料を、区立図書館の設定した日に持ち寄り、無償交換が行える場の機会を確保します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	検討	実施	継続	継続	継続

取組	52 誰もが暮らしやすいダイバーシティ社会の推進					【新規】
目的	偏見を持たない社会への理解を広める				中央図書館	
内容	個人の様々な個性、あらゆる考え方や生き方を尊重し、偏見や誤解のない正しい理解と知識を持つことが必要です。多様化した社会を生き抜く子どもたちのために、ダイバーシティやマイノリティー等について学べる機会と資料の提供を充実していきます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	実施	拡充	拡充	拡充	拡充



## 2 家庭・地域・学校との協力、連携による取組



社会に開かれた教育の実現には、家庭はもとより、地域や社会全体で支える環境が必要です。学校内においては教員や学校司書をはじめ、区立小中学校のPTAや板橋区コミュニティスクール（ICS）などの地域の活力や、区内企業や大学などの社会資源を生かした大人との関わりを活発化させて、子どもたちのよい刺激や体験となるよう、次の事業に取り組んでいきます。

### 12 事業

取組	53 GIGA スクール構想による ICT の活用					【新規】
目的	読書をとoshした ICT の活用を進めていく。				教育支援センター 指導室・中央図書館	
内容	子どもたちの学びを保障するため、GIGA スクール構想による新しい時代の学びを支える環境整備を図ります。コロナ禍での学習、障がい者や日本語を母国語としない多言語の子どもの学習等を補完し、多様な学びの場の一層の充実として、一人1台支給されるタブレット端末を活用した読書や調べ学習の活用、おすすめ本等の図書の紹介ができる方法を検討します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	検討	実施	継続	継続	継続

取組	54 商店街とのコラボレーションによるイベント実施					【新規】
目的	絵本のまちいたばし構想で地域を活性化する。			中央図書館		
内容	中央図書館に隣接する商店街とのコラボ事業を実施します。図書館で開催している各種イベントを商店街に会場を移して実施することで、地域の活性化の支援とともに、図書館事業のPRに努めていきます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	企画準備	実施	継続	継続	継続

取組	55 図書館サポーターによる図書館運営					【新規】
目的	区と区民による新たな協働運営を進める。				中央図書館	
内容	読み聞かせを中心に活動していた図書館ボランティアを、令和元年度「図書館サポーター」に制度化し、図書館のイベント企画・運営、書架整理、本の修理、館内スタッフサポート等、新たな活動に参画できるようになりました。今後継続して、サポーターの養成及びスキルアップを図る講座を実施しながら、サポーターとの協働運営を拡大し、人材の定着化を目指します。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	240人	250人	255人	260人	265人	270人

取組	56 本を活用した質の高い教育の持続					【新規】
目的	質の高い教育の持続を進める。				中央図書館 小学校・中学校	
内容	SDGsの考えに基づく質の高い教育を持続するために、学校から要請される図書の購入により、信頼の高い情報を授業に活用できるようにします。図書の活用を活発化し、学力向上や読み解く力を引き伸ばす効果につなげます。また、出前授業（ゲストティーチャー）を企業や大学に依頼し、専門家の実践的な授業をとおして、生きた社会知識の学びを増やしていきます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	なし	企画準備	実施	継続	継続	継続

取組	57 家庭読書（うちどく）の日の定着					【継続】	
目的	家庭読書の定着化を図る。				中央図書館		
内容	区立図書館では、毎月２３日を家庭読書（うちどく）の日としてPR・普及に努めています。家庭で同じ本を読む、本 の話題で会話を楽しむなど、家庭読書の楽しみ方を積極的に情報発信して、親子のコミュニケーション力を高めるものとします。						
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	
	実施	継続	継続	継続	継続	継続	

取組	58 学校への団体貸出の充実						【拡充】
目的	学校での積極的な図書活用を支援する。				中央図書館		
内容	各図書館のエリアにある小・中学校に団体貸出しを行っています。毎年、学校アンケートにより、図書館に購入してほしい資料や希望ジャンル、充実してほしい具体的な資料の把握に努め、学校からのリクエストに応じています。						
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充	

取 組	59 図書館見学・職場体験の実施					【拡充】
目 的	見学や体験をとおして図書館を知ってもらう。				中央図書館	
内 容	小学校には図書館見学、中学校には職場体験の受入れを行っています。図書館見学では、学年やクラス単位で対応しています。図書館ガイダンス、普段見ることのできないバックヤードや閉架書庫などの館内見学、スタッフによる読み聞かせなどを行っています。職場体験では1回約3人を3日程度、図書館スタッフとして実際の業務を体験しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取組	60 学校図書館連携強化					【拡充】
目的	学校図書館の運営支援を積極的に行い、図書館を魅力的な場所にする。				学務課・指導室 小学校・中学校 中央図書館	
内容	学務課、指導室、学校、図書館が連携し、学校図書館の運営を支援しています。要望があれば、図書館サポーターを派遣して、書架整理、本の修理、ディスプレイ、読み聞かせのお手伝いをしています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取 組	61 学校図書委員と図書館との交流					【拡充】
目 的	交流の場を広げ、相互の図書館活動に反映する。				中央図書館 小学校・中学校	
内 容	各図書館のエリアにある小・中学校の学校図書委員と区立図書館員の交流の場として、意見交換をしています。また、学校の生徒が作成した冊子などを図書館で紹介するなど、相互の交流の場を広げています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取組	62 読書通帳の活用					【継続】
目的	読書状況を可視化し、不読率の減少につなげる。				中央図書館 小学校・中学校	
内容	図書館オリジナルの読書通帳は、タイトル、日付、書評を記載できる通帳を窓口で配布しています。図書館ホームページからもダウンロードができます。各学校では朝読書や授業に活用し、学校独自の読書ノートなどを活用している学校もあり、読書の推進に取り組んでいます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	配布	継続	継続	継続	継続	継続

取組	63 ボローニャ・ブックフェア in いたばし ☆					【継続】
目的	イベントをとおして外国図書の魅力を伝える。				中央図書館	
内容	その年にボローニャ児童図書展事務局から寄贈された、世界の絵本を中心に展示するイベントを実施しています。多方面と連携しながら、子どもから大人まで幅広い世代に、各国の文化・言語・芸術等を身近に感じ、気軽に楽しめる場を提供しています。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取組	64 図書館ホームページの充実・SNSの活用					【継続】
目的	リアルタイムな情報を魅力的に伝える。				中央図書館	
内容	区ホームページをはじめ、各図書館のホームページやSNSを活用し、常にリアルタイムな情報を更新し、見やすいページ、知りたい情報に、工夫を凝らした様々な情報を発信していきます。					
年次計画	現状	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充



読書通帳（中学生）



ボローニャ・ブックフェア in いたばし



『家読書の日』展示



アニメシオン（氷川図書館）



手作り絵本原画展



Facebook 等の SNS

### 第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会 設置要領

令和2年5月25日  
教 育 長 決 定

(趣旨)

第1条 この要領は、第三期板橋区子ども読書活動推進計画の策定にあたり、その内容を検討するため、板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会(以下「委員会」という。)の設置について、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討し、教育委員会教育長に報告する。

- (1) 子どもの読書活動の施策に関すること
- (2) 板橋区子ども読書活動推進計画の策定に関すること
- (3) その他必要な事項に関すること

(委員)

第3条 委員会は、別表1に掲げる委員をもって構成する。

2 委員会の委員長及び副委員長は学識経験者が務める。

(運営)

第4条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が召集する。

2 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、第三期板橋区子ども読書活動推進計画を策定した日までとする。

(事務局)

第7条 事務局は、別表2に掲げる委員をもって構成する

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局中央図書館において処理する。

(その他必要な事項)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、委員の合意で定める。合意は、出席委員の過半数でこれを決定し、可否同数の時は、委員長の決するところによる。

2 この要領は第三期板橋区子ども読書活動推進計画を策定した日をもって廃止する。

別表 1

役 職	職 名
委 員 長	学識経験者
副委員長	学識経験者
委 員	地域教育力担当部長
委 員	教育委員会事務局次長
委 員	区立小学校代表
委 員	区立中学校代表
委 員	区立小学校PTA連合会代表
委 員	区立中学校PTA連合会代表
委 員	区立保育園代表
委 員	幼稚園代表
委 員	区立児童館代表
委 員	図書館司書代表（3名）
委 員	図書館サポーター代表

（15名）

別表 2

役 職	職 名
事 務 局	子ども家庭部 保育サービス課長
事 務 局	子ども家庭部 子ども政策課長
事 務 局	教育委員会事務局 学務課長
事 務 局	教育委員会事務局 指導室長
事 務 局	教育委員会事務局 生涯学習課長
事 務 局	教育委員会事務局 地域教育力推進課長
事 務 局	教育委員会事務局 中央図書館長

（7名）

第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会 委員名簿

役 職	職 名	氏 名
委 員 長	学識経験者	片岡 輝 (東京家政大学名誉教授)
副委員長	学識経験者	山口 諤司 (大東文化大学教授)
委 員	地域教育力担当部長	湯本 隆
委 員	教育委員会事務局次長	藤田 浩二郎
委 員	区立小学校代表	阿部 ひろみ (区立蓮根第二小学校主幹教諭)
委 員	区立中学校代表	北村 康子 (区立志村第四中学校長)
委 員	区立小学校PTA連合会代表	山田 貴之 (区立小学校PTA連合会副会長)
委 員	区立中学校PTA連合会代表	秋葉 芳枝 (区立中学校PTA連合会会長)
委 員	区立保育園代表	根岸 順子 (区立西前野保育園長)
委 員	幼稚園代表	田中 泰彦 (成増幼稚園長)
委 員	区立児童館代表	金子 圭子 (区立氷川児童館長)
委 員	図書館司書代表	日向 明子 (区立高島平図書館)
委 員	図書館司書代表	高松 杏 (区立氷川図書館)
委 員	図書館司書代表	安川 まさ子 (区立蓮根図書館)
委 員	図書館サポーター代表	吉田 和子 (朗読「わ」の会)

役 職	職 名	氏 名
事 務 局	子ども家庭部 保育サービス課長	佐藤 隆行
事 務 局	子ども家庭部 子ども政策課長	雨谷 周治
事 務 局	教育委員会事務局 学務課長	星野 邦彦
事 務 局	教育委員会事務局 指導室長	門野 吉保
事 務 局	教育委員会事務局 生涯学習課長	家田 彩子
事 務 局	教育委員会事務局 地域教育力推進課長	諸橋 達昭
事 務 局	教育委員会事務局 中央図書館長	大橋 薫



第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会 検討経過

会 議	開催日時	検討内容
第 1 回 検討委員会	令和 2 年 9 月 14 日 (月) 14 時～	(1) 第三期検討委員会開催スケジュール (2) 第二期計画の進捗状況について (3) 読書に関する三ケート調査(児童館・保育園・幼稚園)の実施について (4) 第三期計画の目次構成について (5) その他 ①「小中学校取組状況等のアンケート」令和 2 年度 ②「読書についてのアンケート集計結果」(小学校・中学校) 令和元年度
第 2 回 検討委員会	令和 2 年 11 月 11 日 (水) 14 時～	(1) 令和 2 年度「読書についてのアンケート集計結果」(小学校 6 校) (2) 「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」策定のためのアンケート調査結果(小学校保護者) (3) 各図書館における事業実施状況について (4) 第三期計画期間における取組事業について (5) 第三期計画の全体構成について
第 3 回 検討委員会	令和 2 年 12 月 18 日 (金) 14 時～	(1) 「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」素案について (2) パブリックコメントの実施について (3) その他 ①「読書についてのアンケート」まとめ(中学校) 令和 2 年度 ②次回開催日及び議題について
第 4 回 検討委員会	令和 3 年 3 月 1 日 (月) 13 時 30 分～	(1) パブリックコメントの実施結果について (2) 「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」原案について (3) その他

平成十三年法律第百五十四号

## 子どもの読書活動の推進に関する法律

### （目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

### （基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

### （国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

### （地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

### （事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

### （保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

### （関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

板橋区子ども読書活動推進計画 2025

編集 板橋区教育委員会 事務局中央図書館

〒174-0071 板橋区常盤台四丁目3番1号

TEL 03-6281-0291 FAX 03-6281-0244

Ky-lb-hoshi@city.itabashi.tokyo.jp

令和 3 年 月発行

刊行物番号 -



板橋区教育委員会 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目 66 番 1 号 URL <http://www.city.itabashi.tokyo.jp/sub11>